

委託事業実施内容報告書
平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 国立大学法人 名古屋大学

1. 事業名称 地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり

2. 事業の目的

本事業においては、「健康・安全」、「消費行動」、「地域社会のルール・マナー」など外国人が地域住民として必要な基本的知識を、「やさしい日本語」による外国人市民講座やワークショップ、実践場面における体験活動などを通して身につけながら、それらのテーマや場面で必要な日本語を習得することを目的とする。同時に豊田市内の関連部局と連携しながら講座・ワークショップ、体験活動を企画、準備、運営、評価をすることを通して、外国人住民に対する導入教育のあり方と必要性の理解を促進するとともに、日本語教室を核とした連携先との体制を整備する。

3. 事業内容の概要

本事業においては、まず地域日本語教育コーディネーターと日本語指導者を育成する研修会を開催する。研修会では豊田市内の関連部局への打診、外国人住民の状況説明、講座や体験活動の依頼、教室の協働企画などを行う。この研修を通して、日本語教室を核とした多文化共生社会づくりの体制整備が行える人材を育成するとともに、外国人住民の視点や背景に配慮した地域情報の伝え方や公的サービスのあり方を示す。日本語教室では、外国人市民講座やワークショップ、体験活動を実施し、その様子を映像・音声資料として記録する。この資料を視聴しながら日本人住民と外国人住民がその内容について対話を行い、地域住民としての基本的知識を身につけるとともに、生活者としての日本語の運用能力を身につける。年度末にはシンポジウムを開催し、多文化共生社会づくりのために地域社会の実際の活動と日本語教室の活動が連携することの重要性を周知するとともに、さらなる連携の体制整備の必要性を提言する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 6月23日 16:00～ 19:00	3時間	名古屋大学国 際棟206	品田潤子 金田智子 米勢治子 古橋三吉 村上京子 北村祐人 衣川隆生	1. 平成25年度「地域住民としてのライフステージを支える生活日本語教室運営事業」事業報告 2. 平成26年度「地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり」事業計画 3. 意見交換	・平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【地域日本語教育実践プログラム(A)】委託事業実施内容報告書に基づき、昨年度の事業報告が行われ、昨年度の成果、課題についての意見交換が行われた。 ・平成26年度「地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり」事業計画に基づき、平成26年度の事業目的、研修会、教室運営の基本方針と流れ、シンポジウムの計画についての説明が行われ、その内容について意見交換が行われた。
2	平成27年 2月12日 15:30～ 18:30	3時間	豊田市国際交 流協会	品田潤子 金田智子 米勢治子 新矢麻紀子 古橋三吉 村上京子 北村祐人 衣川隆生	1. 教室活動モニタリング 2. 平成25年度「地域住民としてのライフステージを支える生活日本語教室運営事業」事業報告 3. シンポジウムの検討	・事業評価に向け、豊田市国際交流協会において開催中の日本語講座「安全・安心な生活しよう」の教室活動モニタリングが実施された。 ・「日本語教育を行う人材の養成・研修の実施」として実施した「『生活日本語教室』指導者育成研修会『体験を通した日本語学習をデザインしよう』」、日本語教室の開設実施状況について説明が行われ、説明内容、モニタリングの結果にもとづき、研修、教室運営の課題と評価についての意見交換が行われた。 ・3月3日に開催するシンポジウムの際、本事業の成果をどのように捉えるか、また、その成果をどのように地域内、さらには地域外に普及していくかを検討した。

5. 取組についての報告

○取組1：地域日本語教育コーディネーター・日本語指導者育成研修会

(1) 体制整備に向けた取組の目標 本取組の第一の目標は市内の関連部局に対して、多文化共生社会構築の観点から外国人市民講座等の必要性、重要性を説明し、連携しながら日本語教室の企画、運営が行える人材を育成することにある。第二に外国人の視点で地域の現状や課題が検討でき、その結果にもとづき外国人に地域住民として必要な基本的知識を紹介できる人材を育成することを目標とする。

(2) 取組内容 本取組においては、豊田市の関連部局と連携しながら、日本語教室の企画立案、準備、運営、評価、改良を行う地域コーディネーター及び日本語指導者を育成する研修会を開催する。まず、平成26年6月～8月の間に基本理念、地域コーディネーター及び日本語指導者の役割、日本語教室の企画立案、準備、運営、評価、改良のプロセスについての理解を目的としたワークショップを3回行う。次に、テーマに応じて市役所内の関連部局、消防本部、病院、図書館などの公的サービスを提供する機関、外国人住民が多数居住する地域の自治会などへの連携の打診、外国人住民の状況説明、講座やワークショップ、体験活動の協力依頼、日本語教室の企画を行うグループ別実施研修を2回、モニター学習者を同伴した体験・行動を通じた接触場面の言語運用資料の収集を行うグループ別実施研修を2回、収集資料の分析、具体的なコースデザイン実習を3回実施する。

(3) 対象者 豊田市内で活動が行える者で、多文化共生社会構築の観点から地域の日本語教育に関心がある者。

(4) 参加者の総数 9人
出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	9人

(5) 開催時間数(回数) 4時間 (全 14 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	7月12日 13:00- 17:00	4時間	豊田市国際交流協会(TIA)32会議室	9人	日本(9人)	事業概要と進め方	「生活日本語教室」を立案、運営、評価、改良していく際に必要な基本的な考え方を共有することを目的として、「生活者としての外国人」のための日本語教育ハンドブック(試行版)、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブックを利用し、その中からキーワードを抽出し、なぜそれらのキーワードを抽出したか、なぜそれらのキーワードが重要か、そのキーワードは実践場面でどのような意味を持つのかをグループで議論した。	衣川隆生	
2	7月19日 13:00- 17:00	4時間	豊田市国際交流協会(TIA)32会議室	8人	日本(8人)	教材・教室づくりの方法1	文化庁事業のオリエンテーションとして、(1)地域日本語教育実践プログラム(B)の目的、本事業の目的、研修会の目的を概観し、地域日本語教育コーディネーター、日本語指導者として身につけるべき能力を確認した。その上で、循環的な手順を踏みながら研修、事業を進めていくことを説明し、グループで教室活動のテーマとして可能性のあるものを検討した。次に「協働先への打診・交渉・調整」能力育成を目的として、協働先へ出向いた際どのように本事業の目的、活動への協力を依頼するかをロールプレイを通して疑似体験した。	衣川隆生	
3	7月26日 13:00- 17:00	4時間	豊田市国際交流協会(TIA)32会議室	8人	日本(8人)	教材・教室づくりの方法2	「外国人市民のための出前講座」を開催するための調整活動の方法と、出前講座からどのような学習項目を抽出するかを検討した。	衣川隆生	
4	7月27日 ～8月8日	4時間	本事業により開催している日本語教室、またはとよた日本語学習支援システム運営の日本語教室	9人	日本(9人)	教室見学	コーディネーター、日本語指導者(指導補助者)、教材作成者の視点をもって教室活動を見学し、具体的な状況と共に、どんなことに「疑問」を感じたり、「気づき」があったかについて記述し、その記述から提言に繋がるレポートを提出する。	個別活動	

5	8月9日	4時間	豊田市国際交流協会(TIA)32会議室	9人	日本(9人)	活動デザインの方法	平成26年7月31日に実施した協働先である市役所各課に対する事業概要説明・協力依頼の報告に基づいて、「市役所ツアー班」と「防犯・安全教室班」の二つのグループに分かれ、具体的な教室活動計画や教材作成計画、実践に向けて協働先との交渉・調整の計画を立案した。	衣川隆生	
6~7	8月10日 ~9月12日	8時間	グループ単位で協働先との交渉・調整	8人	日本(8人)	活動デザイン実習	教室活動や教材作成の具体化に向けて、立案した計画に基づき協働先との交渉・調整を実施した。	グループ活動	
8	9月13日 ~9月21日	4時間	グループ単位で協働先との活動実施	8人	日本(8人)	活動実施	協働先と交渉、調整して計画した教室活動や教材作成作業を実施した。	グループ活動	
9	9月27日	4時間	とよた男女共同参画センター情報交換室 豊田市産業文化センター2階	9人	日本(9人)	教材作成の方法	「防犯・安全教室」、「市役所ツアー」の映像記録を利用した教材作成、教室活動の計画の方法を理解し、それに基づいて、グループに分かれて、教材作成計画、教室活動立案を行った。	衣川隆生	
10~	9月28日 ~10月7日	8時間	とよた男女共同参画センター情報交換室 豊田市産業文化センター2階	7人	日本(7人)	教材作成実施	グループ単位で、学習者が日本語パートナーとともに疑似体験、追体験し、それを振り返りながら、「行動達成目標」を達成するためには、講座、体験のどの部分を抜き出せばいいか、そして、その部分で、どんな活動をし、どんな内容・ことばを結果として抽出してもらえばいいかを検討し、教材案、教室活動案を作成した。	グループ活動	
12	10月18日	4時間	とよた男女共同参画センター情報交換室 豊田市産業文化センター2階	9人	日本(9人)	教室活動実習とふりかえり	グループ単位で作成した教材案、教室活動案に基づいて、模擬教室活動実習を行い、相互にふりかえりを実施した。「防犯・安全教室班」は、豊田市役所交通安全防犯課職員による「防犯教室」を題材に教材を作成し、模擬教室活動を実施した。「市役所ツアー班」は外国人モニターによる「市役所ツアー」の映像を利用した教材を作成し、模擬教室活動を実施した。	衣川隆生	

(7) 参加者の募集方法

豊田市内各所にて配布する募集チラシ、「とよた日本語学習支援システム」が運営するホームページにて募集した。
http://www.toyota-j.com/misc/ja_whatsnew_180.pdf

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) 第3回 教材・教室づくりの方法1

豊田市防犯対策課が一般市民を対象とした出前講座で使った資料に基づき、その内容を「1時間程度の外国人市民のための出前講座」にするには、どのように内容を調整すればいいか、どのようなことを意識して話して(進めて)もらえばいいか、どのような活動を行えばいいかを検討し、その結果に基づいて、協働先への模擬説明をロールプレイ形式で実施した。さらに、実際の出前講座、体験活動の映像資料をグループで分析し、そこからどのような「生活上の行為」、「行動達成目標」が取り上げられるかを検討した。

2) 第6～7回 活動デザイン実習

教室活動や教材作成の具体化に向けて、立案した計画に基づき協働先との交渉・調整を実施した。「市役所ツアー班」は、「市役所ツアー」を学習者が日本語パートナーとともに疑似体験、追体験できる映像教材を作成するため、豊田市役所市民課、子ども家庭課等と交渉を行い、撮影計画を完成させた。「防犯・安全教室班」は本事業で実施する「防犯・安全教室」の具体的な教室活動を検討し、その実現に向けて豊田市役所交通安全防犯課と交渉を行い、活動案を完成させた。

3) 第8回 活動実施

協働先と交渉、調整して計画した教室活動や教材作成作業を実施した。「防犯・安全教室班」は9月4日に豊田警察署、豊田市役所交通安全防犯課と協働で「防犯・安全教室」を実施し、教材用の映像を撮影した。「市役所ツアー班」は9月19日に豊田市役所財務管理課、市民課、子ども家庭課との協働のもと、外国人モニターによる「市役所ツアー」を実施し、教材用の映像を撮影した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果 豊田市では地域住民として必要な基本的知識を紹介する出前講座を市内の関連部局が開講している。しかし、こうした講座等の想定受講者は日本人住民であり、外国人住民に向けた情報周知が念頭に置かれたものは少ない。またその他の公的サービスも、外国人住民への周知に取り組んでいるものの、まだ認知度が高いとはいえず利用者数が思うように伸びていないことも課題として挙がっている。この現状を改善していくために、本取組では、市内の関連部局に対して、多文化共生社会構築の観点から外国人市民講座等の必要性、重要性を説明し、連携しながら日本語教室の企画、運営が行える人材を育成することを第一の目標としていた。この点に関しては、研修会を通して、豊田市の関連部局と連携しながら、日本語教室の企画立案、準備、運営、評価を行えたことから達成できたと評価できる。また、第二の目標として外国人の視点で地域の現状や課題が検討でき、その結果にもとづき外国人に地域住民として必要な基本的知識を紹介できる人材を育成することもある。この点に関しては、取組2における教室活動を記録し、そのふり返りにより検証する。

(10) 改善点について 本研修会では、テーマに応じて市役所内の関連部局への連携の打診、外国人住民の状況説明、講座やワークショップ、体験活動の協力依頼、日本語教室の企画を行うグループ別実施研修を2回、言語運用資料の収集を行う研修を2回、コースデザイン実習を3回実施した。これは昨年度の研修会において40時間では不十分であったということに基づいている。しかしながら、関連部局と日時、場所を調整して打ち合わせする場合に、都合を合わせてその場に参加することは、全ての受講者には難しかった。グループ活動への参加を研修会修了の条件としていたことは今後検討する必要がある。また、公的機関への打診、交渉を行う場合、文化庁受託事業による研修会受講者という立場では、理解を得ることが難しく、最初の説明を行うにも時間を要する。その第一段階をどう改善していくかは今後の大きな課題である。

○取組2－1：地域全体で取り組む日本語教室の開催(「和太鼓体験」を通して、日本文化と日本語を学ぼう)

- (1) 体制整備に向けた取組の目標 本講座の目的・目標は、外国人住民が日本の伝統文化についてのことばと知識を得ると共に、同地区に在住する日本人住民と外国人住民相互の関係性を深めることにある。
- (2) 取組内容 多文化共生と地域振興を目的として毎週集会所で開催されている和太鼓教室に、日本語教室活動の一環として外国人住民も参加し、日本語による指導を受ける。

(3) 対象者 地域在住・在勤の外国人

(4) 参加者の総数 6人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	3人	ペルー	2人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	1人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 4時間 (全2回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月26日 18:00～ 20:00	2時間	外根住宅集会所	6人	ペルー(2名) ブラジル (3名) ネパール (1名)	和太鼓	「和太鼓体験」を通して、日本文化と日本語を学んだ。		小野 則子 岩本 道子
2	平成26年 8月2日 18:00～ 20:00	2時間	外根住宅集会所	2人	ペルー(2名)	和太鼓	「和太鼓体験」を通して、日本文化と日本語を学んだ。		得永 美穂 萩原 栄子

(7) 参加者の募集方法

団地内掲示板への掲示。過去の教室参加者への戸別配布及び電話連絡。教室開講前に行われた団地の夏祭りでのチラシ配布。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1)取組テーマ「和太鼓体験を通して日本語を学ぶ」平成26年7月26日

団地内和太鼓教室の指導者及び参加者との協働のもと、和太鼓を体験することで日本の文化に触れ、また地域住民と交流を図る目的の教室活動を行った。既存の団地内和太鼓教室の活動時間に訪れ、教室参加者と自己紹介をし合った後、まずは、太鼓にまつわる語彙の確認を、ワークシートを使用して行った。その後、和太鼓指導者の指示と参加者のサポートのもと、和太鼓を体験した。最後は別室に移動し、和太鼓の歴史や語彙の確認を再度行った。

2)取組テーマ「和太鼓体験を通して日本語を学ぶ」平成26年8月2日

この回の教室活動では、学習者の集まりが悪く教室活動の変更を余儀なくされた。しかしながら、他の日本人参加者の練習風景の見学をしたり、和太鼓体験(和太鼓指導者のマンツーマン指導)を体験したりなどすることができた。また、日本語習得の面では、太鼓に関する語彙・表現を学習し、体験と結びつけた学習活動を行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

本教室では、和太鼓教室に外国人が参加し、日本人住民と太鼓の体験にとまどわず参加できるような日本語学習を念頭においた。そのため、事前学習で太鼓の先生の発話が理解できるような語彙・表現を事前学習することとした。また、和太鼓の歴史やなりたちを書いた説明を読み理解するだけでなく、読み合わせを行ったりして日本語の音に慣れる機会にした。そのための事前学習のワークシートを創る際には太鼓教室の先生に資料をもらったり、出来上がったシートを見せたり確認を行った。こうした事前学習のおかげで、学習者の日本語学習と太鼓の体験はスムーズなものになった。また、学んだことば・表現を実際に太鼓の先生等の発話で聞くことによって、学習者の記憶に行動とともに残ったと思われる。

また、日本語教室を団地内和太鼓教室と協働で開催し、参加者相互の関係づくりを行うとともに、将来的には地域のお祭りでの発表会に教室参加者が加わることに外国人住民が地域活性化の人材として活躍することを目指していた。しかしながら、後述する改善点でも述べるように、既に追込み状態に入っていた和太鼓教室に加わることは、日本語教室の参加者をお客として扱うような結果になってしまった部分もある。この点は当初の目的の達成はできなかったと考えられる。しかしながら、来年度にはどの段階から加われば、正式なメンバーとして加われるかも参加者、開催者も認知し、それに向けて準備できる状態ができたことは成果として認められる。

(10) 改善点について 団地の和太鼓教室は住民同士の交流を目的としており、外国人の参加も望んではいたものの、既存の参加者は4月から練習を続けてきたこと、発表会を控え練習も追込みに入っていたことから、逆にはじめて参加した外国人住民には加入の難しさを感じさせてしまった。时期的なことからそのような事態を予測したり、いきなり練習に加わるのではなくまずは「体験教室」として別で活動を行うなどの配慮が必要であった。

○取組2-2:地域全体で取り組む日本語教室の開催(生活日本語教室「防災について学ぼう!」)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本講座の目的・目標は、講座受講や外国人住民のための導入教育用ビデオ視聴、体験活動を通して、①地域在住の外国人がそのコミュニティで円滑な日常生活を営むために必要となる防災などの基礎知識を身に付けること、②それらのテーマに関わる生活日本語を運用する能力を身につけること、③外国人住民と接する機会がある日本人住民が相互理解のためのやさしい日本語を身につけることにある。

(2) 取組内容 ビデオ教材、豊田市防災学習センターでの体験活動を通じて、防災知識と共に、そこで必要な日本語を日本語ボランティアとの対話を通して身につける。

(3) 対象者 地域在住・在勤の外国人

(4) 参加者の総数 21人
出身・国籍別内訳

中国	9人	インドネシア	5人
韓国	人	タイ	3人
ブラジル	3人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	1人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 6時間 (全2回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 8月3日 13:30～ 16:30	3時間	あすて	6人	タイ(3名) インドネシア(1名) 中国(1名) フィリピン(1名)	防災	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【防災編】『防災について考えよう』」を視聴しながら、地域住民として知るべき災害・防災についての知識とそれに関わることばを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。	千葉 月香	日下部 玲子 笹山 悦子
2	平成26年 8月24日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市防災学習センター	16人	タイ(1名) ベトナム(2名) 中国(8名) 台湾(1名) インドネシア(4名)	防災	豊田市防災学習センターにおいて、愛知淑徳大学コミュニティコラボレーションセンター、日本赤十字豊田看護大学セレンディビティと協働で、地域住民として知るべき災害・防災についての知識とそれに関わることばを学ぶと共に、災害時の対応を体験し、対策を検討した。	愛知淑徳大学 コミュニティ コラボレーション センター 日本赤十字豊 田看護大学セ レンディビティ 豊田市防災学 習センター	日置 陽子

(7) 参加者の募集方法

多言語によるチラシを作成し、国際交流協会に配架及び他の日本語教室等に周辺企業等に配布した。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) 取組テーマ「防災」(映像教材を活用した日本語学習)

豊田市受託事業で作成した、豊田市防災対策課職員が防災について啓発を行う様子を録画し教材化した映像教材を使用し、日本語学習を行った。講座の中では、企業より提供を受けた防災食を試食する等、映像だけにとどまらない教室活動を展開した。また、開催場所であるあすでの要望も取り入れ、あすで主導の防災訓練も取り入れた。防災訓練には、豊田市消防本部から職員も来て、訓練について改善点などの講評をいただいた。参加者が日本語を学ぶだけでなく、運営側にとっても意味のある活動となった。

2) 取組テーマ「防災」(防災学習センターでの日本語学習)

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター、日本赤十字豊田看護大学セレンディピティの学生が参加する2つ団体と協働して、防災に関する学習プログラムを企画した。また、豊田市防災学習センターに案内をお願いし、センター内の学習を行った。学習活動はボランティアと日本語でやりとりを行い、見学だけではなく日本語プログラムとした。また、学生が出すアイデアを最大限取り入れ、クイズや防災グッズづくり体験などに取り組んだ。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

本取組では、防災の知識をボランティアと語り合う中で、その人にとって必要なことば・表現を習得できるような教室活動を心がけた。特に、語彙や実際に使われる言葉などはビデオ教材等を活用し、それについてボランティアと話し合う中での運用能力の習得に寄与できたと考える。また、ボランティアだけでなく、防災学習センターの職員や他大学の学生の話す日本語にも触れることで、多様な属性の人が話す日本語にも触れることができた。

さらに、本教室では多様な機関と協力してプログラムづくりをすることができた。そのため、それぞれの機関にとって外国人への周知の重要性を認識してもらったり、その後の協力体制の萌芽を促すことができた。また、本事業で実施している指導者・コーディネーターを育成する研修の参加者にも参加してもらい、実践に触れ、学びをよりよいものとする場とした。

(10) 改善点について

多くの企業に声をかけたり、チラシを配布したことにより多様な背景の参加者を呼ぶことができた。その一方で、2回中2回参加した人は数名だった。そのため、複数回参加してもらえるような働きかけが必要だったと考える。

○取組2-3:地域全体で取り組む日本語教室の開催(くらしに役立つ日本語教室)

(1) 体制整備に向けた取組の目標 本講座の目的・目標は、外国人住民のための導入教育用ビデオを視聴し、その内容について外国人住民と日本語住民が協働で理解を深めることにより、①豊田市内に在住、在勤の外国人が地域住民として暮らしていくために必要となる医療、ごみ、図書館利用などの基礎知識を身につけること、②それらのテーマに関わる生活日本語を運用する能力を身につけること、③外国人住民と接する機会がある日本人住民が相互理解のためのやさしい日本語を身につけること、④これらの機会を通して、外国人が地域における導入教育の担い手となることにある。

(2) 取組内容 出前講座の映像や体験学習を通して地域で暮らしていくために必要な基礎知識と、そこで必要な日本語を日本語ボランティアとの対話を通して身につける。さらに、そこで習得した知識を日本語で表現することにより、地域での導入教育のなり手となることを目指す。

(3) 対象者 地域在住・在勤の外国人住民

(4) 参加者の総数 15人
出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	15人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 24時間 (全 8回) 台風による休講のため、9回の予定を8回とした。

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 8月3日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	6人	インドネシア(6人)	医療(豊田地域医療センターへ行く)	病院内の掲示物で使用されている漢字表記を学習し、学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。	衣川 隆生	
2	平成26年 8月10日 9:00~12:00	台風による休講							
3	平成26年 8月24日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	6人	インドネシア(6人)	医療(豊田地域医療センターへ行く)	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【医療編】『豊田地域医療センターへ行く』」を視聴しながら、病院での外科、内科の受付、診療、会計、薬局に関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。	衣川 隆生	
4	平成26年 8月31日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	5人	インドネシア(5人)	環境(ごみについて考えよう)	豊田市におけるごみの種類と分別の仕方、ごみの処理の仕方とそれに関わることを学習し、さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。	衣川 隆生	
5	平成26年 9月7日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	5人	インドネシア(5人)	環境(ごみについて考えよう)	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【環境編】『ごみについて考えよう』」を視聴しながら、ごみ分別の必要性などの知識とそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。	衣川 隆生	
6	平成26年 9月14日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	5人	インドネシア(5人)	教育(図書館へ行く)	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【教育編】『図書館へ行く』」を視聴しながら、図書館の利用方法について学び、交流館内の図書室にて図書カードの申し込みを行った。その過程を、受講生同士で相互に伝え合う活動も行った。	衣川 隆生	
7	平成26年 12月7日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	11人	インドネシア(11人)	交通安全(信号・標識)	標識、信号の意味とそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。	衣川 隆生	岡部 真理子
8	平成26年 12月14日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	14人	インドネシア(14人)	交通安全(自転車の乗り方)	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【交通安全編】『交通安全』」を視聴しながら、安全な自転車の乗り方、自転車のルールとそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。	衣川 隆生	岡部 真理子 白石真理
9	平成26年 12月21日 9:00~12:00	3時間	豊南交流館	9人	インドネシア(9人)	防犯	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【防犯編】『防犯』」を視聴しながら、盗難に遭わないための知識とそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。	衣川 隆生	岡部 真理子

(7) 参加者の募集方法

市内のコミュニティセンター、公的機関、近隣企業への声かけにより募集した。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) 第1回 医療(豊田地域医療センターへ行こう)

病院内の案内、掲示板などの写真を探しながら、そこで使用されている漢字語を学習した。同時に、その案内、掲示板では「誰が」いるのか、「何を」ところかを話し合うことで、医療センターのシステムとそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。

2) 第3回 環境(ごみについてかんがえよう)

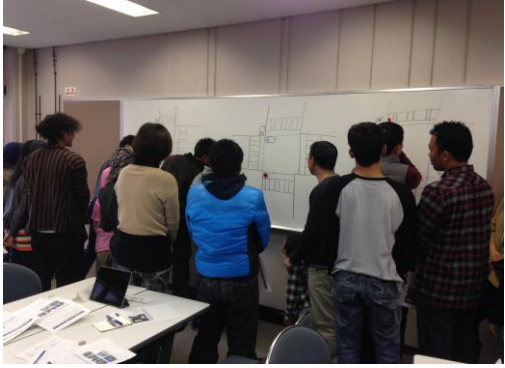
「豊田市資源・ごみの分け方・出し方」を見ながら、ごみの種類と分別の仕方、ごみの処理の仕方とそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。

3) 第7回 交通安全(信号・標識)

標識、信号の意味とそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。

4) 第9回 交通安全(自転車の安全ルール)

「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ【交通安全編】『交通安全』」を視聴しながら、安全な自転車の乗り方、自転車のルールとそれに関わることを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。さらに学んだ内容を発表形式で相互に伝え合う活動も行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果 目標①、②、④に関しては、市が発行しているパンフレットや申請書、そして市が提供している出前講座を映像記録した導入教育用ビデオを利用することにより、外国人学習者が他地域からの日本語ボランティアに対し、日本語で豊田市の状況等を説明したり、実際に会場である交流館内の図書館で利用カードを申請したり図書検索を体験したりできたことから、目的は達成できたと評価できる。しかし目標の③に関しては、以下の改善点で述べる課題を今後解決していく必要がある。

(10) 改善点について 地域住民として暮らしていくために必要な基礎知識を題材とした場合、日本語ボランティアが制度について教え、外国人学習者がそれを習得するという関係になりがちである。実際にはごみの出し方など他地域からの参加者は日本人でも知らないことが多く、どれが適切な対応方法かなどを対等に話し合い自分たちなりの解釈を見いだしていったり、再度公的機関に問い合わせるなどの対応ができるようになることが教室の目指すところであろう。このような活動を常に行えるように運営を考える必要である。

○取組2-4: 地域全体で取り組む日本語教室の開催(生活日本語教室「安全について学ぼう!」)

(1) 体制整備に向けた取組の目標 本講座の目的・目標は、交通安全、防犯についての講座受講、体験活動、その後の外国人住民と日本語住民との対話を通して、①地域在住の外国人がそのコミュニティで円滑な日常生活を営むために必要となる安全に関わる基礎知識を身に付けること、②それらのテーマに関わる生活日本語を運用する能力を身につけること、③外国人住民と接する機会がある日本人住民が相互理解のためのやさしい日本語を身につけることにある。

(2) 取組内容 交通安全、防犯についての出前講座の受講と豊田市交通安全学習センターでの体験活動を通して、地域で暮らしていくために必要な基礎知識と、そこで必要な日本語を日本語ボランティアとの対話を通して身につける。

(3) 対象者 地域在住・在勤の外国人住民

(4) 参加者の総数 27人

出身・国籍別内訳

中国	10人	インドネシア	4人	台湾2人 アメリカ7人 メキシコ1名 カナダ1名
韓国	人	タイ	2人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	人	

(5) 開催時間数(回数) 12時間 (全 2回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 9月4日 9:00～16:30	6時間	あすて	6人	中国(10名) 台湾(2名) インドネシア(4名) アメリカ(7名) タイ(2名) メキシコ(1名) カナダ(1名)	交通安全と防犯	豊田警察署交通課交通総務課による外国人住民のための「交通安全教室」、豊田市役所交通安全防犯課による外国人住民のための「防犯教室」を受講し、地域住民として知るべき安全についての知識とそれに関わることばを日本語をボランティアとの対話を通して学んだ。	豊田警察署交通課交通総務課 豊田市役所交通安全防犯課	
2	平成26年 9月5日 9:00～16:30	6時間	豊田市交通安全学習センター	16人	中国(10名) 台湾(2名) インドネシア(4名) アメリカ(7名) タイ(2名) メキシコ(1名) カナダ(1名)	交通安全	豊田市交通安全学習センターにおいて、地域住民として知るべき交通安全についての知識とそれに関わることばを学ぶと共に、自転車の安全な乗り方を体験した。	豊田市交通安全学習センター	

(7) 参加者の募集方法

多言語によるチラシを作成し、国際交流協会に配架及び他の日本語教室等に周辺企業等に配布した。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1)取組テーマ「交通安全と防犯」

豊田警察署交通課、豊田市役所交通安全防犯課に出前講座に来てもらい、講義を日本語で聞いた。一般のからの日本語パートナー(ボランティア)も募り、教室活動を進めていった。自転車の防犯について、交通ルールについて、模型や実物の自転車を使ったりして学んだ。

2)取組テーマ「交通安全」

豊田市の施設である「豊田市交通安全学習センター」を活用し、交通安全について学んだ。職員の講義のあと、実際の体験施設を日本語パートナー(ボランティア)とともに見学し、わからない言葉やわからないルールについて日本語パートナーと話し解決していった。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

本講座では安全な生活をいかにしていくかということに焦点をあてて、活動を行った。日本語学習やそれをサポートする日本人住民である日本語パートナーの参加という側面からも目的は達成された。

(10) 改善点について

出前講座の日程調整や内容のうち合わせ、施設の利用についてそれぞれの都合を勘案すると体験や講座の順序などがこちらの当初の意図通りうまく組み立てられなかった。

○取組2ー5:地域全体で取り組む日本語教室の開催(日本語教室「日本の野菜をたくさん食べましょう!」)

(1) 体制整備に向けた取組の目標 本講座の目的・目標は、地元の野菜についての講座受講、体験活動、その後の外国人住民と日本語住民との対話を通して、①地域在住の外国人がそのコミュニティで豊かな日常生活を営むために必要となる食材やなどの基礎知識を身に付けること、②それらのテーマに関わる生活日本語を運用する能力を身につけること、③外国人住民と接する機会がある日本人住民が相互理解のためのやさしい日本語を身につけることにある。

(2) 取組内容 スーパーで購入可能な野菜についての出前講座の受講とスーパーでの体験活動を通して、地域で暮らしていくために必要な基礎知識と、そこで必要な日本語を日本語ボランティアとの対話を通して身につける。

(3) 対象者 地域在住・在勤の外国人住民

(4) 参加者の総数 11人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	2人
ブラジル	1人	ペルー	5人
ベトナム	人	フィリピン	2人
ネパール	1人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 6時間 (全3回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 9月13日 13:30～ 15:30	2時 間	外根住宅	7人	ブラジル (1名) ペルー(3 名) フィリピン (2名) ネパール (1名)	日本の野 菜	野菜ソムリエによる外国人住民のための「日本の野菜講座」を受講し、旬の野菜や地元の野菜についての知識を得るとともに、それに関わることばを日本語ボランティアとの対話を通して学んだ。	得永 美穂	古賀 恵美 千葉 月香
2	平成26年 9月20日 13:30～ 15:30	2時 間	外根住宅	3人	ペルー(2 名) フィリピン (1名)	買い物	住宅に隣接したスーパーへ野菜の買い物に行き、日本語を使って店員や日本語ボランティアと交流を行いながら旬の野菜や地元の野菜についての情報を収集し、買い物をを行った。	古賀 恵美	小野 則子 岩本 道子
3	平成26年 9月27日 13:30～ 15:30	2時 間	外根住宅	7人	ペルー(4 名) フィリピン (1名) タイ(2名)	レシピ	「日本の野菜講座」受講、スーパーでの体験活動を通して学んだことを共有すると共に、教室活動を通して学んだ料理のレシピについて日本語を使って発表した。	小野 則子	岩本 道子 千葉 月香

(7) 参加者の募集方法

団地内掲示板への掲示。過去の教室参加者への戸別配布及び電話連絡により募集した。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) 取組テーマ「日本の野菜を知りましょう」

団地に隣接しているスーパー「やまのぶ」との協働のもと、日本の野菜について知り、普段の食生活に活かしてもらうことを目的とした教室活動を行った。まず、日本語パートナーと日本の野菜についてどのくらい馴染みがあるか、母国でよく食べる野菜は何かなどを話した後、やまのぶの担当者が旬の野菜や、栄養素、調理法や有機野菜についての講座を行った。講座では野菜の試食や豚汁の調理のデモンストレーションも行い、参加者達はそれらに対する感想を共有するとともに、学習者は調理に使われる日本語も学習した。最後に、学習者の母国のスープを紹介してもらい、次の買い物体験でその材料を探すこと、日本の野菜で代用できるものはないかなどを日本語パートナーと検討し、次の活動に備えた。

2) 取組テーマ「スーパーで買いものしましょう」

前回学んだ野菜を実際の生活に取り入れること、また、スーパーの中や食品の表示について知り、日常生活に役立てることを目的に、スーパー「やまのぶ」との協働のもと、実際に店内で買い物体験をする活動を行った。まず、教室で、前回の活動の振り返り及び、普段スーパーでの買い物で困っていること、スーパーで買いたいもの、見たいものを日本語パートナーと確認した後、やまのぶにて買い物体験を行った。やまのぶでは、学習者と日本語パートナーが組になって店内を回り、前回学んだ野菜を確認したり、食品や、店内の表示等についてわからないことを話し合ったりした。最後にスーパーの担当者に疑問や要望を伝える時間をとり、直接回答をもらう機会を得た。

3) 取組テーマ「レシピを紹介しましょう・持ち寄りパーティー」

前回までに学んだ野菜を実際の生活に取り入れること、それを周りに発信すること、学習者と日本語パートナーがお互いの国の食文化を知ることなどを目的とした教室活動を行った。参加者はそれぞれ野菜を使った料理を持ち寄り、互いの料理を楽しんだ後、それらのレシピを作成し、学習者は皆の前で発表した。レシピは日本人パートナーのものと一緒にレシピ集として印刷し、後日参加者達に配布した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果 目的の①については、教室ではじめて知った食材を実際に家で取り入れ家族から好評であったとの報告があったり、アンケートに、もっと日本の料理の教室をやってほしいとの声が寄せられたりしたことから、食材の知識を得たとともに食への興味も広がり、外国人住民の食生活を豊かにすることに貢献できたと思われる。また、目的の②については、2回目の買い物体験の際、日本語パートナーとのやりとりで学んだ日本語で、実際にスーパーの担当者に質問や要望を伝えることができたこと、3回目の教室活動で作成したレシピには活動中に取得した調理用語が使用されていたことから、教室活動で学んだ日本語が運用に結びついたと言える。最後に目的③については、買い物体験の活動の中で、日本人参加者は外国人住民の視点からの多くの気づきを得ることができ、対話の中でやさしい日本語を意識するのはもちろん、外国人住民にとって暮らしやすい社会を考えるきっかけにもなった。

(10) 改善点について 1回から3回までの一貫した活動を考えていたが、3回とも継続して参加した学習者は1名だけで、効果的な学習ができたかどうか疑問である。ボランティア教室では学習者の参加の状況も考慮したコースデザインが必要である。

○取組2-6: 地域全体で取り組む日本語教室の開催(日本語講座「安全・安心な生活をしよう」開設)

(1) 体制整備に向けた取組の目標 本講座の目的・目標は、講座受講や外国人住民のための導入教育用ビデオ視聴、体験活動を通して、①豊田市内に在住、在勤の外国人が地域住民として暮らしていくために必要となる医療、薬、交通安全などの基礎知識を身につけること、②それらのテーマに関わる生活日本語を運用する能力を身につけること、③外国人住民と接する機会がある日本人住民が相互理解のためのやさしい日本語を身につけること、④これらの機会を通して、外国人が地域における導入教育の担い手となることにある。

(2) 取組内容 出前講座の映像や体験学習を通して地域で暮らしていくために必要な基礎知識と、そこで必要な日本語を日本語ボランティアとの対話を通して身につける。さらに、そこで習得した知識を日本語で表現することにより、地域での導入教育の担い手となることを目指す。

(3) 対象者 地域在住・在勤の外国人住民

(4) 参加者の総数 10人
出身・国籍別内訳

中国	5人	インドネシア	1人	台湾(1人) ルーマニア(1人)
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	2人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	人	

(5) 開催時間数(回数) 18時間 (全 6回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年 1月22日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市国際交 流協会	7人	中国(3人) ブラジル(2 人) インドネシ ア(1人) 台湾(1人)	医療・薬 局	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ 【医療編】『豊田地域医療センターへ行こう』」を視 聴しながら、病院での外科、内科の受付、診療、 会計、薬局に関わることばを日本語をボランティ アとの対話を通して学んだ。	岡部 真理子	得永 美穂 白石 真理
2	平成27年 1月29日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市国際交 流協会	6人	中国(3人) 台湾(1人) インドネシ ア(1人) ルーマニア (1人)	薬・薬局	薬剤師による外国人住民のための「薬局に行こ う」を受講し、薬の知識と正しい使い方の知識を 得ると共に、それに関わることばを日本語ボラン ティアとの対話を通して学んだ。	岡部 真理子	得永 美穂 白石 真理
3	平成27年 2月5日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市国際交 流協会 スギ薬局	5人	中国(2人) 台湾(1人) インドネシ ア(1人) ブラジル(1 人)	薬・薬局	教室に隣接した薬局にに行き、店員や日本語ボ ランティアと日本語を使って交流を行いながら症 状の説明、薬の説明の理解をを行った。	岡部 真理子	中野 美智子 得永 美穂
4	平成27年 2月12日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市国際交 流協会	3人	中国(3人)	薬・薬局	薬局での体験活動を通して収集した資料、学ん だことを参加者が相互に伝え合う発表会を実施 した。	岡部 真理子	白石 真理 荻谷 太佳子
5	平成27年 2月19日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市国際交 流協会	4人	中国(3人) インドネシ ア(1人)	交通安全 (信号・標 識)	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ 【交通安全編】『交通安全』」を視聴しながら、標 識、信号の意味とそれに関わることばを日本語を ボランティアとの対話を通して学んだ。	得永 美穂	岡部 真理子 荻谷 太佳子
6	平成27年 2月26日 13:30～ 16:30	3時間	豊田市国際交 流協会	4人	中国(3人) インドネシ ア(1人)	交通安全 (自転車 の乗り方)	「豊田市外国人住民のための導入教育用ビデオ 【交通安全編】『交通安全』」を視聴しながら、安 全な自転車の乗り方、自転車のルールとそれに 関わることばを日本語をボランティアとの対話を 通して学んだ。	得永 美穂	白石 真理 荻谷 太佳子

(7) 参加者の募集方法

メーリングリストを活用、豊田市の広報(広報とよた)に掲載、教室近くの輸入食料品店にチラシを設置することによって募集

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) 第2回「薬局に行こう」①

パワーポイントや薬のパッケージ等の実物を使用しながら薬剤師による出前講座を日本語ボランティアとの対話を通して視聴し、薬の種類や服用の仕方を学んだ。その後、薬剤師に病気や薬に関する質問をした。

2) 第3回「薬局に行こう」②

教室の近くのドラッグストアへ出かけ、症状を薬局の人に伝えて質問に答えた。

その後、日本語ボランティアと一緒に薬のパッケージを読んで、適切な薬を選んだり、購入したりした。

3) 第4回「薬局に行こう」③

日本語ボランティアと一緒にドラッグストアで購入したいいろいろな薬のハンドブックを作成した。次に購入してみたいものを選びその理由を伝えあい発表した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果 学習者の教室における最後の発表内容と毎回の活動後のふりかえり用紙に記載された結果によると、学習者の活動への理解度は、5段階評価項目中、平均4.2点とおおむね高い結果を得た。また、日本語ボランティアのアンケートの記録では、学習者が病気の症状や薬に関する基礎知識を説明できるようになったことと、外国人に伝わりやすい日本語使用の必要性に気が付いたことが示された。実施にあたり薬剤師などの専門家を含む多くの協働者と運営にあたったことは、多方面からの視点を得られ、日本語学習支援のプログラムを充実させることに繋がった。さらに、学習者と日本語ボランティアによる「対話と協働」の教室のあり方とプロセスが今回の取り組みの課題解決に繋がった。また、後半の交通安全に関しては、活動内での発表から学習者達は講座を正確に理解できたことがわかった。これにより、学習者は、生活に必要な知識を学ぶことができ、さらに、周りに知識を伝えることができるようになったといえる。これらの点から目的の①④については達成できたと考えられる。またIpadを使用することで、学習者と日本語ボランティアが話し合う時間を十分にとることができた。これはお互いの相互理解を深めることとなり、ここで交わされたやりとりは目的の②学習者の生活日本語の運用能力③ボランティアの相互理解のためのやさしい日本語の習得につながったと思われる。

(10) 改善点について 「医療・薬」の講座については、専門家による出前講座や薬局への体験活動を通して行動目標や学習目標を認識し、受講者と日本語ボランティアが対話を行いながら、その目標を達成するという方式を取った。上記に記載した通り目標達成度からも、この方式は、十分成果を挙げられたと考えられる。また「交通安全」に関しては、導入教育ビデオを使用しての教室活動は、Ipadを利用し、学習者のペースで行うことでより効果的な学習ができることを実感したが、日本語がほとんど理解できないレベルの学習者にとっては難しい活動であると感じた。導入教育を外国人住民に広めるためには、学習者のレベルが混在した教室でも対応できるような教室活動を考える必要がある。

○取組3:「地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり」シンポジウム開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標 本取組においては、シンポジウムを開催し、昨年度より取り組んできた地域日本語教育実践プログラムの成果を共有するとともに課題と今後の展開を検討する

(2) 取組内容 2年間取り組んできた地域日本語教育実践プログラムについて概要を説明したうえで、出前講座、体験活動を連携して運営した機関の担当者から、今回の事業に協力することで見てきた地域社会の現状や課題、地域全体で日本語教室に関わっていくことの必要性について報告してもらう。それらの報告を踏まえ、有識者による事業の評価と今後の課題の改善策についての議論を行う。

(3) 対象者 地域住民及び外国人と関わる機関、企業、自治会などのコミュニティの関係者

(4) 参加者の総数 130人
出身・国籍別内訳

中国	3人	インドネシア	1人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	1人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	125人

(5) 開催時間数(回数) 3.5時間 (全 1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年 3月3日 13:00～ 16:30	3.5時 間	豊田市役所東 庁舎5階	130人	中国(3 人)、ペ ルー(1 人)、インド ネシア(1 人)、日本 (125人)	地域全体 で取り組 む日本語 教室を核 とした多文 化共生社 会づくり	本事業の成果と課題と今後の展望について、報告、パネルディスカッションを行った。	豊田彬子 井上洋 金田智子 新矢麻紀子 ナシメント サ ユミ 野田洋子 加藤聖加 北村祐人 衣川隆生	

(7) 参加者の募集方法

Facebookでイベントページを立ち上げるなどSNSやメーリングリスト等を最大限活用するとともに、チラシ・ポスターを自治体・国際交流協会・大学等に送付(500件)。また、名古屋大学が取り組んできた平成25～26年度の「導入教育カリキュラム等の追加委託」、文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育事業」について、協力した行政機関・公的機関・民間団体・店舗・企業等に周知を行った(約30件)。また、この2か年で作成した教材等が活用されると想定される団体や教室等にも周知を行い、今後の展開を見据えた広報活動を行った。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

【事業報告】

名古屋大学と豊田市の取組
北村祐人(とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター)

【事例報告】

日本語教育における連携の意義

報告者:

衣川隆生(名古屋大学国際教育交流本部国際言語センター 教授)
野田洋子(豊田市役所子ども部子ども家庭課 課長)
加藤聖加(豊田市役所社会部防災対策課 主事)

コメンテーター:

新矢麻紀子(大阪産業大学 教授)
ナシメント サユミ(豊田市外国人市民会議委員)

【パネルセッション】

これからの「地域日本語教育」を考える

コーディネーター:衣川隆生

パネリスト:

豊田彬子(公益財団法人豊田市国際交流協会 理事長)
井上洋(一般社団法人日本経済団体連合会 社会広報本部長)
金田智子(学習院大学 教授)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

本取組では、本学が平成25～26年度にかけ、行ってきた「生活者としての外国人のための日本語教育事業」の総括として、事業報告・関わった担当者の報告、有識者の議論を行った。様々な立場の参加者が意見を言い、今後の方向性についてある一定の可能性を示せたことは大きな成果の一つである。また、教材作りに関わり、本取組で報告を行った市役所課長からは、本事業が行政担当者にとって、外国人向けの行政サービスの向上についての意識向上につながったこと、またこうした取組が全ての部署で行われることが望まれるといったかなり踏み込んだ意見が出た。こうしたコメントは一例であるものの、本事業が行ってきた連携を中心とした取組が、社会に求められるものであること、また意識の萌芽・啓発につながったことを示しており、これまでの取組の成果を十分に示していると考えられる。

(10) 改善点について

登壇者の調整等に時間がかかり、広報に十分な時間がかけられなかった。また、議論が具体的な部分に及んだ部分が多く、はじめて本学の取組について知る人たちにとってはわかりにくいものではなかったかと懸念される。今後は、上記2点について改善していきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

本事業においては、「健康・安全」、「消費行動」、「地域社会のルール・マナー」など外国人が地域住民として必要な基本的知識を、「やさしい日本語」による外国人市民講座やワークショップ、実践場面における体験活動などを通して身につけながら、それらのテーマや場面で必要な日本語を習得することを目的とする。同時に豊田市内の関連部局と連携しながら講座・ワークショップ、体験活動を企画、準備、運営、評価をすることを通して、外国人住民に対する導入教育のあり方と必要性の理解を促進するとともに、日本語教室を核とした連携先との体制を整備する。

(2) 事業目的の達成状況

本事業では、上述したとおり外国人が地域住民として必要な基本的知識を身につけながら、それらのテーマや場面で必要な日本語を習得することを第一の目的としている。教室報告でも記述したとおり、豊田市役所(市民課、子ども家庭課、交通安全防犯課、財産管理課)、防災学習センター、豊田市交通安全学習センター等の市内学習センター、豊田警察署、薬局、交流館図書館、自治会組織、スーパーなどと連携しながら出前講座、体験活動を教室活動として実施したり、映像記録した導入教育用ビデオを利用することにより、外国人学習者が他地域からの日本語ボランティアに対し、日本語で豊田市民が知るべき基礎知識を説明したり、実際に買い物やレシピづくりしたりすることが出来たことから、第一の目的はほぼ達成できたと評価できる。同時に、豊田市内の関連部局と連携しながら講座・ワークショップ、体験活動を企画、準備、運営、評価をし、その過程で外国人住民に対する導入教育のあり方と必要性の理解を促進するとともに、日本語教室を核とした連携先との体制を整備するという目的も、研修会、教室活動、シンポジウムを通して実現できたと評価できる。

(3) 地域における事業の効果、成果

本事業がフィールドとする豊田市は多文化共生社会を推進していくことを目指し様々な取り組みを行ってきている。しかし、市が実施した「外国人住民意識調査」の結果からは、地域住民として必要な基本的知識を理解していない外国人も多いことが示されている。さらに地域社会で活躍している外国人が少ないことも課題として挙げられている。この要因として、地域情報を伝える一翼を担い、地域社会での活躍の場の足がかりとなるべき日本語教室の活動が、地域社会とは断絶したものになっていること、地域情報の伝え方が外国人住民の視点や背景に配慮したものになっていないことが指摘されている。

本事業の研修会においては、豊田市役所で外国人住民と関わりの深い課と講座、体験活動の企画の調整を行い、外国人を対象とした出前講座や体験活動を実現することができた。財産管理課との連携により市役所ツアー、市民課、子ども家庭課との連携により窓口体験、交通安全課との連携により防犯教室が実現できた。さらに、研修会受講者が、市内で活躍する薬剤師などの人的リソース、スーパー、薬局などのリソースに連携の打診、調整を行い、複数の教室の企画を実現できた。この過程でどうすれば外国人住民の視点や背景に配慮して地域情報を伝えるべきかを研修会受講者だけではなく、連携した諸機関の担当者も感じられたと評価できる。シンポジウムにおいては登壇した市役所担当者から、この事業で行ったような活動を今後の職員研修にも利用すべきであるというコメントからも示唆される。

また、教室活動においては、市が発行しているパンフレットや申請書、そして市が提供している出前講座を映像記録した導入教育用ビデオを利用することにより、外国人学習者が他地域からの日本語ボランティアに対し、日本語で豊田市で住民が求められる基礎知識を説明する活動を行った。この活動を通して、地域住民として必要な基本的知識の理解を促進すると共に、地域社会で活躍する外国人を増やすことができたと考えられる。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状 (2)「事業目的の達成状況」、(3)「地域における事業の効果、成果」で述べたとおり、本事業での当初の目的は達成され、かつ事業の効果、成果はある程度示せたと判断できる。しかしながら、豊田市内に在住・在勤の外国人は1万3000人を越えており、今回の事業に参加した人数はそのうちのわずかな数でしかない。また、連携を打診しても活動の意義、目的を理解し、活動に協力する機関もまだ一握りにすぎない。公的サービスを提供する様々な機関が外国人住民の視点や背景に配慮しながら情報を伝えられるようになるには、今後の継続が求められる。

ii 今後の課題 今後、外国人住民が地域住民として必要な基本的知識を日本語学習を通して身につけるとともに、公的機関が外国人住民の視点や背景に配慮した形で情報を伝えられるようになるためには、本事業で行った研修、教室運営の過程を継続していかなければならない。そのためには、多文化共生社会構築の観点から外国人市民講座等の必要性、重要性を説明し、連携しながら日本語教室の企画、運営が行える人材の育成、一人でも多くの協働者と教室参加者を増やすことが課題である。

iii 今後の活動予定 今回の事業を通して身につけたノウハウを利用し、市内に外国人住民と対象と下導入教育を普及していく。そのために1)導入教育用の教室をテーマ別に開設する、2)転入してきた外国人に対しては市民課窓口でこの教室を周知できるようにする。在住、在勤の外国人に対しても広報や様々な形を通じて周知する、3)企業や中間支援団体の要請に基づき、テーマ別の導入教育教室を開設する、などを計画している。

(5) その他参考資料

地域日本語教育コーディネーター・日本語指導者育成研修会チラシ(kensyu)

「和太鼓体験」を通して、日本文化と日本語を学ぼうチラシ(wadaiko)

生活日本語教室「防災について学ぼう！」チラシ(bosai)

日本語教室「日本の野菜をたくさん食べましょう！」チラシ(yasai)

日本語講座「安全・安心な生活をしよう」チラシ(anzen)

「地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり」シンポジウムチラシ(symposium)

「地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり」シンポジウム配付資料(symposium-resume)

こどもも おとなも いっしょに たたきましょう
にほんごが できなくても だいじょうぶ！
おかねは いりません



にほんご
日本語や
にほんぶんか
日本文化も
まな
学べます

わだいのこ

たいけん
体験

① 7 月 26 日 (土)
がっ にち ど

② 8 月 2 日 (土)
がっふつか ど

じかん
時間：18時から 20時まで

ばしょ
場所：そとねしゅうかいじょ

もう こ
申し込み：もうしこみは いりません。

とうじつ ちよくせつ きてください。

Children! Adults! Everyone is welcome to come and play!

Don't speak Japanese? No problem!

Free Event. No money necessary.



Learn the
Japanese
language and
culture

わだいのこ

たいけん
体験

J a p a n e s e D r u m m i n g E v e n t

1) July 26th (Sat)

2) August 2nd (Sat)

Time: 6 pm to 8 pm.

Location: Sotone Assembly Hall

How to Apply: Application beforehand is not necessary. Please join on the day of the event directly.

Crianças e adultos são bem vindos para tocar juntos.
Tudo bem se não conseguir fala japonês!
Não precisa pagar.



É possível
estudar japonês
e a cultura
japonesa

わだいのこ

たいけん
体験

Experimentando o tambor japonês "Wadaiko"

①26 de Julho (sábado)

②2 de Agosto (sábado)

Horário: das 18:00 às 20:00

Local: Local de encontro de Sotone

Inscrições: Não necessita de uma pré-candidatura. Por favor, venha diretamente para o local no dia.

Adultos y niños, vamos a tocar juntos el tambor.
¡No importa aunque no sepa hablar japonés!
Es gratuito.



Puede aprender
el japonés y la
cultura
japonesa.

わだいのこ

たいけん
体験

Clase experimental de WADAIKO (tambor japonés)

① Sábado 27 de julio

② Sábado 2 de agosto

Hora: desde las 18:00 hasta las 20:00

Lugar: Sotone Shuukaijo (sala de reunión Sotone)

Inscripción: No requiere una pre-solicitud. Por favor, venga directamente al recinto el mismo día.

无论大人还是小孩，让我们一起来敲大鼓吧！
不会日语也没关系！
无须任何费用



即可学习日语，又
可体验日本文化

わだいのこ

たいけん
体験

日 式 大 鼓 体 验 活 动

①7月26日（周六）

②8月2日（周六）

活动时间 18：00-20：00

活动地点 外根集合会场

报名方式 请在活动当日直接来现场报名。



Taiko No Rekishi
たいこのれきし



Taiko Wa Mukashi Jikan O Oshieru Dogu deshita.
たいこ は むかし じかん を おしえる どうぐ でした。

Nen Mae Ni Ongaku No Gakki Ni Narimashita.
400ねん まえ に おんがく の がっき に なりました。

Ima Wa Bonodori Ya Matsuri De Tsukaimasu.
いま は ぼんおどり や まつり で つかいます。

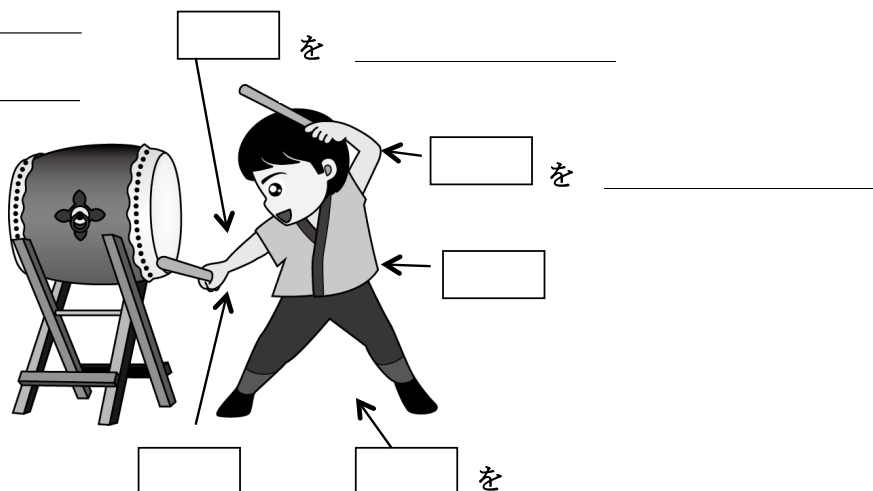
Toyo tashi Ni 30 Ijyou No Taiko No Gurupu
とよたし に 30いじょう の たいこの グループ

Ga Arimasu.
が あります。

Taiko No Kotoba
たいこのことば

Tatakimasu たたきます		Kara ～から	
Uchimasu うちます		Hyoshi ～ひょうし	
Mawarimasu まわります		Mo Ikkai もういっかい	
Nobashimasu のばします		Tekubi てくび	
Rirakkusu リラックス shimasu します		Hiji ひじ	
Hajimemasu はじめます		Ashi あし	
Yamemasu やめます		Koshihi こし	

たいこ を _____



日本語講座「安全・安心な生活をしよう」

日本語パートナー募集

～病院や薬局について知ろう！交通安全について学ぼう！～



外国での暮らしは不安がつきもの。病気になったら、その不安は一層高まります。また、突然交通事故にあったらどうやって対処したらよいか困ります。この日本語教室では薬についての講義を薬剤師から聞いたり、交通安全のルールを一緒に学んだりして安心・安全に暮らす知識を学びます。

そこで、日本語を学ぶ外国人学習者の補助を行うボランティア「日本語パートナー」を募集します。日本語パートナーとは、外国人学習者と会話をしながらわからない言葉を説明して交流を行う人のことです。外国語が話せなくても大丈夫です。私たちと一緒に国際交流を楽しみましょう

日にち： ①1月22日②1月29日③2月5日④2月12日（全4回 医療・薬）

⑤2月19日⑥2月26日（全2回 交通安全）

毎週木曜日

時 間： 13:30～16:30

場 所： 豊田市国際交流協会（TIA） 32会議室

【豊田市小坂本町1-25 豊田市産業文化センター3F TEL:0565（33）5931】

参加費： 無料 持ち物：筆記用具

対 象： 18歳以上の日本語が話せる人 *託児はありません

内 容： ○病院で受付から診察を受ける方法を知り、病気に備える
○薬剤師の出前講座を聞いて薬の種類や正しい服用法を知る
○薬局に出かけて必要な薬を購入する
○交通安全や自転車のルールを知り交通事故から身を守る

申込・問い合わせ：名古屋大学 衣川研究室

Email otoiawase@toyota-j.com

電話 052-789-4700

氏名		住所	
電話		e-mail	

*この日本語教室は、文化庁より名古屋大学が受託した日本語教育事業として開催されます

Materi Pelajaran Bahasa Jepang "Mari Wujudkan Hidup Aman dan Tenang"
Yuk kenali rumah sakit dan apotik!
Yuk belajar berlalulintas yang aman!



Tanggal: ① 22 Januari (Kamis) ② 29 Januari (Kamis) ③ 5 Februari (Kamis)
④ 12 Februari (Kamis) ⑤ 19 Februari (Kamis) ⑥ 26 Februari (Kamis)
(Total 6 kali)

Jam : 13:30 – 1630

Tempat : Toyota International Association (TIA) Ruang Meeting 32

[Toyota Industry and Culture Center, 3rd Floor 1-25 Kozakahonmachi Toyota City] TEL:0565(33)5931

Biaya : GRATIS

Peserta : Orang Asing berumur 15 tahun lebih

* Tidak disediakan tempat penitipan anak

* Tidak apa-apa meskipun Anda tidak bisa berbicara bahasa Jepang ! Interaksi dengan orang Jepang akan menggunakan bahasa Jepang yang gampang.

Isi : ○ Persiapkan diri sebelum sakit, dengan tahu cara pendaftaran di resepsionis RS sampai diperiksa dokter
○ Tahu jenis obat dan cara penggunaannya yang benar
○ Lindungi diri dari kecelakaan lalu lintas, dengan tahu peraturan

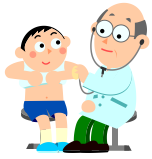
Hubungi : Laboratorium Kinugawa Universitas Nagoya
(Untuk pendaftaran, sertakan informasi berikut dalam e-mail Anda)

Email : otoiawase@toyota-j.com

Telepon : 052(789)4700

Nama		Alamat	
Telepon		Email	

ชั้นเรียนภาษาญี่ปุ่น (ดำรงชีวิตด้วยความปลอดภัยและความมั่นใจกันเถอะ!)
มารู้เกี่ยวกับโรงพยาบาลและร้านขายยากันเถอะ!
มาเรียนรู้เรื่องความปลอดภัยบนท้องถนนกันเถอะ!



วัน : ①พ. 22 ม.ค. ②พ. 29 ม.ค. ③พ. 5 ก.พ.
④พ. 12 ก.พ. ⑤พ. 19 ก.พ. ⑥พ. 26 ก.พ.

(ทั้งหมด 6 รอบ)

เวลา: 13.30 - 16.30

สถานที่: สมาคมการแลกเปลี่ยนนานาชาติแห่งเมือง โตโยตา
(Toyota International Association) ห้องประชุมที่ 32

[Toyota Industry and Culture Center, 3rd Floor 1-25 Kozakahonmachi Toyota City] TEL:0565(33)5931

ค่าเข้าร่วม: ไม่เสียค่าใช้จ่าย

กลุ่มเป้าหมาย: คนต่างชาติอายุมากกว่า 15 ปี

*ไม่มีการรับฝากเลี้ยงดูเด็ก

*แม้ว่าจะพูดภาษาญี่ปุ่นไม่ได้ก็ไม่เป็นไร! สนทนาด้วยภาษาญี่ปุ่นง่ายๆกับคนญี่ปุ่น

เนื้อหา:

- เรียนรู้วิธีการเข้ารับการตรวจที่โรงพยาบาลตั้งแต่เริ่มและวิธีป้องกันการเจ็บป่วย
- เรียนรู้วิธีการใช้ยาที่ถูกต้องและทำความรู้จักกับประเภทของยา
- เรียนรู้ความปลอดภัยบนท้องถนนและกฎการขับขี่จักรยานเพื่อป้องกันตนเองจากอุบัติเหตุ

ติดต่อสอบถาม: มหาวิทยาลัยนาโกยา ห้องวิจัยคินุกาวา (สนใจสมัครเข้าร่วมติดต่อตามอีเมลที่ระบุไว้ด้านล่าง)

Email : otoiawase@toyota-j.com

เบอร์โทรศัพท์ : 052(789)4700 x

ชื่อ นามสกุล		ที่อยู่	
เบอร์โทรศัพท์		Email	

本教室は、平成26年度文化庁委嘱事業『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム (B) 』の一貫です。

Lớp học tiếng Nhật “Cùng nhau sống an toàn và yên tâm”

Cùng tìm hiểu về bệnh và các loại thuốc!

Cùng học về giao thông an toàn!



Ngày:

①Ngày 22 tháng 1 (thứ Năm) ②Ngày 29 tháng 1 (thứ Năm) ③Ngày 5 tháng 2 (thứ Năm)
④Ngày 12 tháng 2 (thứ Năm) ⑤Ngày 19 tháng 2 (thứ Năm) ⑥Ngày 26 tháng 2 (thứ Năm)
(Tổng cộng 6 lần)

Thời gian: Từ 13:30 đến 16:30

Địa điểm: Hiệp hội giao lưu quốc tế thành phố Toyota (TIA) Phòng họp số 32

【Toyota Industry and Culture Center, 3rd Floor 1-25 Kozakahonmachi Toyota City】TEL:0565(33)5931

Phí tham gia: Miễn phí

Đối tượng: Người nước ngoài từ 15 tuổi trở lên

*Không có dịch vụ trông trẻ

*Không cần hiểu tiếng Nhật! Chỉ là những giao tiếp đơn giản với người Nhật

Nội dung: ○Tìm hiểu về cách giao tiếp ở bệnh viện và kiểm tra sức khỏe ở bệnh viện, chuẩn bị cho khi bị ốm đau

○Tìm hiểu về cách sử dụng đúng cho các loại thuốc

○Tìm hiểu về luật an toàn giao thông và quy định khi đi xe đạp, bảo vệ mình khỏi tai nạn giao thông

Đăng ký và giải đáp thắc mắc: Văn phòng Kinugawa (Để đăng ký xin hãy gửi email cùng các thông tin sau đến địa chỉ email:)

Email : otoiawase@toyota-j.com

Điện thoại : 052(789)4700

Họ tên		Địa chỉ	
Điện thoại		Email	

本教室は、平成26年度文化庁委嘱事業『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（B）』の一貫です。

Aula de japonês 「Vamos viver com tranquilidade e segurança」
Vamos aprender sobre o hospital e a farmácia
Vamos aprender sobre segurança no trânsito



Data:

- ① 22 de janeiro (quinta-feira) ② 29 de janeiro (quinta-feira) ③ 5 de fevereiro (quinta-feira)
④ 12 de fevereiro (quinta-feira) ⑤ 19 de fevereiro (quinta-feira) ⑥ 26 de fevereiro (quinta-feira)
(6 aulas ao todo)

Horário: 13:30 às 16:30

Local: Associação Internacional de Toyota (TIA) Sala de reuniões número 32

[Toyota Industry and Culture Center, 3rd Floor 1-25 Kozakahonmachi Toyota City] TEL: 0565(33)5931

Taxa de participação: Gratuita

Alvo: Estrangeiros acima de 15 anos de idade

- * Não haverá cuidadores de criança
- * Não há problema se não domina o idioma japonês! Os japoneses irão falar de modo simplificado

Conteúdo:

- Aprendendo o modo de se consultar no hospital começando pela recepção, se preparando para uma doença
- Aprendendo sobre os tipos de remédio e o modo correto de usá-los
- Vamos nos proteger contra acidentes de trânsito, aprendendo sobre segurança no trânsito e as regras das bicicletas

Inscrições ou dúvidas: Universidade de Nagoya, sala de pesquisa Kinugawa
(Para inscrever-se, envie por e-mail os dados a seguir)

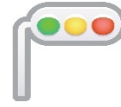
Email : otoiawase@toyota-j.com

Telefone : 052(789)4700

Nome		Endereço	
Telefone		Email	

本教室は、平成 26 年度文化庁委嘱事業『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム (B) 』の一貫です。

Japanese Class: Safe and Secure Living
Let's get to know about hospitals and pharmacies!
Let's learn about traffic safety!



Dates : 1) January 22nd (Th) 2) January 29th (Th) 3) February 5th (Th)
4) February 12th (Th) 5) February 19th (Th) 6) February 26th (Th)

(6 times total)

Time: 1:30pm to 4:30pm.

Place: Toyota International Association (TIA) Meeting Room 32

[Toyota Industry and Culture Center, 3rd Floor 1-25 Kozakahonmachi Toyota City] TEL: 0565(33)5931

Fee: Free

Eligibility: Foreigners 15 years of age or older

*Day-care center not available

*Don't speak Japanese? Not a problem!

The staff will speak in easy-to-understand Japanese

We will cover:

- Hospital reception to medical examination and dealing with illnesses
- Types of medicine and proper use
- Traffic and bicycle rules to avoid accidents

For application or questions: Nagoya University Kinugawa Research Lab
(Please send the information below by email for application)

Email : otoiawase@toyota-j.com

Telephone : 052(789)4700

Name		Address	
Telephone		Email	

本教室は、平成 26 年度文化庁委嘱事業『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム (B) 』の一貫です。

日语讲座“让我们过上安全·安心的生活吧”

让我们来了解一下关于医院及药局・交通安全的知识吧！



日程： ①1月22号（周四） ②1月29号（周四） ③2月5号（周四）
④2月12号（周四） ⑤2月19号（周四） ⑥2月26号（周四）
（共6回）

时间： 13:30～16:30

地点： 丰田市国际交流协会（TIA）32 会议室

【豊田市小坂本町1-25 豊田市産業文化センター3F TEL:0565(33)5931】

参加费用： 免费

招集对象： 15 岁以上的外国人*不提供托儿服务

*不会说日语也没关系！用简单的日语跟日本人交流。

内容： ○了解在医院挂号看病的方法，做好应对疾病的准备
○了解药品的种类及正确的使用方法
○了解交通安全及自行车的交通规则，远离交通事故

报名・咨询： 名古屋大学 衣川研究室（报名请发送以下表格信息至以下邮箱地址）

Email： otoiawase@toyota-j.com

电话： 052-789-4700

姓名		住址	
电话		Email：	

本教室は、平成 26 年度文化庁委嘱事業『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（B）』の一貫です。

日語教室「過個安全・安心的生活吧！」

來了解日本的醫院和藥局吧！

來學習日本的交通安全規則吧！



日期：①1月22号（周四）②1月29号（周四）③2月5号（周四）
④2月12号（周四）⑤2月19号（周四）⑥2月26号（周四）
（共6回）

時間：13：30～16：30

教室：豐田市國際交流協會（T I A） 32會議室

【豐田市小坂本町1-25 豐田市産業文化センター3F TEL:0565(33)5931】

參加費用： 免費

參加資格： 15歲以上的外國人＊無寄放小孩的服務

＊不會說日文也沒關係！與日本人進行簡單的日語會話交談

課程內容

○了解醫院裡從掛號到看診的方法，為生病看診最好準備

○了解藥品的種類和正確的使用方法

○了解交通安全規範、騎自行車的規則，防止交通事故保護自身安全

報名及聯絡方式：名古屋大學 衣川研究室（報名請於電子郵件填妥以下資料）

Email： otoiawase@toyota-j.com

電話： 052-789-4700

姓名		地址	
電話		Email：	

本教室は、平成26年度文化庁委嘱事業『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（B）』の一貫です。

生活日本語教室「防災について学ぼう！」

日本語教室受講者募集 ♪

外国での暮らしは、不安がつきもの。突然災害が起きたら、どうしたらいいのでしょうか。この日本語教室では、防災についての講義を聞き、災害時に聞いたり見たりする難しいことばを学びます。その中で、災害時に役立つ日本語を学びます。

また、この日本語教室では、豊田市防災学習センターに行って、地震や火災等の模擬体験をしたり、避難の仕方を学んだりします。

体験を通じて楽しく災害時の日本語を学びましょう。

日時：①2014年8月3日（日） 13：30～16：30

②2014年8月24日（日）13：30～16：30

場所：①8/3（日） あすて（豊田市本町本竜43）

②8/24（日） 豊田市防災学習センター（豊田市長興寺5-17-1）

参加費：無料 持ち物：筆記用具

参加資格：

日本語を学びたい人ならだれでも

内容：防災について学ぶ日本語教室

○防災に関する知識と関連する日本語表現

○災害時の対応方法と体験

申込・問合せ：あすてに電話か以下の申込書を提出

あすて TEL 0565-52-0362



生活日本語教室「防災について学ぼう！」に参加します。

氏名		住所	
電話		e-mail	

Lớp học tiếng Nhật dành cho đời sống「Cùng nhau học về phòng chống thiên tai!」

Tuyển học viên cho lớp học tiếng Nhật ♪

Sống ở nước ngoài là một việc luôn đi kèm với những nỗi lo lắng. Cần phải làm gì khi bất chợt thiên tai xảy ra? Ở lớp học tiếng Nhật này, học viên sẽ được nghe giảng về việc phòng chống thiên tai và học những từ ngữ khó chỉ được nhìn thấy, nghe thấy khi có thiên tai xảy ra. Từ đó học viên sẽ học được vốn tiếng Nhật hữu ích trong thời điểm thiên tai.

Thêm vào đó, ở lớp học tiếng Nhật này học viên còn được tới Trung tâm học tập về phòng chống thiên tai thuộc thành phố Toyoda, được trải nghiệm mô phỏng động đất và hỏa hoạn, để từ đó học cách lánh nạn.

Hãy cùng nhau học tiếng Nhật về thiên tai thật vui vẻ thông qua cái trải nghiệm này nhé!

Thời gian: ① Ngày 3/8/2014（Chủ nhật） 13:30～16:30
② Ngày 24/8/2014（Chủ nhật） 13:30～16:30

Địa điểm: ① 3/8（Chủ nhật） Aste (Honryū-43 Honmachi, Toyota-shi)
② 24/8（Chủ nhật） Trung tâm học tập về phòng chống thiên tai thuộc thành phố Toyoda (5 Chome-17-1 Chōkōji, Toyota-shi)

Lệ phí tham dự: Miễn phí Đồ mang theo: Giấy bút để viết

Người có thể tham gia:

Tất cả những người muốn học tiếng Nhật

Nội dung: Lớp học tiếng Nhật về phòng chống thiên tai

○ Tri thức về phòng chống thiên tai và cách biểu đạt bằng tiếng Nhật liên quan

○ Cách đối phó khi có thiên tai và trải nghiệm thiên tai

Đăng ký/Giải đáp thắc mắc: Gọi điện (gửi đơn đăng ký) đến
Aste TEL 0565—52—0362



ĐĂNG KÝ THAM GIA

Lớp học tiếng Nhật dành cho đời sống「Cùng nhau học về phòng chống thiên tai!」

Tên		Địa chỉ	
Điện thoại		e-mail	

ชั้นเรียนภาษาญี่ปุ่นในชีวิตประจำวัน (มาเรียนรู้กับการรับมือภัยธรรมชาติ)

รับสมัคร ผู้สนใจเข้าชั้นเรียนภาษาญี่ปุ่น

ในขณะที่อยู่ต่างประเทศ หากเกิดเหตุการณ์ไม่ปลอดภัย หรือ ภัยธรรมชาติ จะอย่างไรดี ชั้นเรียนนี้ จัดให้มีการบรรยายเกี่ยวกับการป้องกันภัยจากภัยธรรมชาติ และเรียนรู้การใช้และความหมายของคำศัพท์เฉพาะต่างๆ ที่ใช้เมื่อเกิดเหตุจากภัยธรรมชาติ

นอกจากนี้ ชั้นเรียนนี้จะพาท่านไปยังศูนย์ฝึกซ้อมการป้องกันภัยพิบัติ เมืองโตโยตา และจัดให้มีการจำลองสถานการณ์แผ่นดินไหวและไฟไหม้ เพื่อเตรียมรับมือกับการอพยพอย่างถูกวิธี

มาเรียนรู้ภาษาญี่ปุ่นที่ใช้รับมือภัยธรรมชาติผ่านการปฏิบัติจริงกันเถอะ

วันและเวลา：① 3 สิงหาคม 2014 (วันอาทิตย์) 13：30～16：30

② 24 สิงหาคม 2014 (วันอาทิตย์) 13：30～16：30

สถานที่：① วันที่ 3 สิงหาคม (วันอาทิตย์) อาซูเตะ (เมืองโตโยตา เขตองโจ ย่านองริว เลขที่ 43)

② วันที่ 24 สิงหาคม (วันอาทิตย์) ศูนย์ฝึกซ้อมการป้องกันภัยพิบัติ เมืองโตโยตา (เมืองโตโยตา ย่านโจวโคจิ เลขที่ 5-17-1)

ค่าเข้าร่วม ไม่เสียค่าใช้จ่าย：สิ่งของที่ต้องเตรียมมา：เครื่องเขียน

คุณสมบัติของผู้เข้าร่วม：สำหรับทุกคนที่อยากเรียนรู้ภาษาญี่ปุ่น

รายละเอียด：ชั้นเรียนภาษาญี่ปุ่นเกี่ยวกับการรับมือภัยธรรมชาติ

☐ ส่วนวนภาษาญี่ปุ่นและความรู้พื้นฐานเกี่ยวกับการรับมือภัยธรรมชาติ

☐ ฝึกซ้อมวิธีการรับมือเมื่อเกิดเหตุการณ์จากภัยธรรมชาติ

ติดต่อสอบถาม：อาซูเตะ โทร 0565-52-0362

สมัครชั้นเรียนภาษาญี่ปุ่นในชีวิตประจำวัน (มาเรียนรู้กับภัย

ชื่อ สกุล		ที่อยู่	
โทรศัพท์		อีเมลล์	

生活用语日语学习班「一起学习防灾知识吧！」

日语学习班招生♪

生活在异乡，内心会有不安是难免的事。假如突然发生灾害，我们应该如何应对及处理呢？在此日语学习班，可以听到关于防灾知识的讲座，并且学习一些在发生灾害时，通常会听到或是看到的生僻词汇。在此过程中，我们可以学习到在灾害发生时对我们有用的日语。

除此之外，此日语学习班还会带领我们去丰田市防灾学习中心，体验模拟地震、模拟火灾，学习避难方法等。

让我们通过体验活动，一起快乐地学习应对灾害的日语吧。

时间：①2014年8月3日（周日） 13:30-16:30

②2014年8月24日（周日） 13:30-16:30

地点：①8/3（周日） ASTE（丰田市本町本竜43）

②8/24（周日） 丰田市防灾学习中心（丰田市长兴寺5-17-1）

参加费：免费 携带物品：做笔记需要的文具

参加资格：想学习日语的任何人

内容：防灾知识日语学习班

○防灾知识与防灾用语学习

○灾害应对方法学习与模拟灾害体验

报名・咨询：拨打以下电话或者提交以下申请表至 ASTE
ASTE 电话 0565-52-0362



生活用语日语学习班「一起学习防灾知识吧！」报名申请表

姓名		住所	
电话		电子邮箱	

Kelas Belajar Bahasa Jepang Untuk Hidup Anda 「Ayo Belajar Tentang Penanggulangan Bencana !」 Menerima Peserta Kelas Bahasa Jepang ♪

Hidup di negara asing, tentunya banyak yang dikhawatirkan. Jika tiba-tiba terjadi bencana, bagaimana sebaiknya? Di kelas Bahasa Jepang ini, Anda akan mendapatkan materi tentang bencana, juga belajar kosakata sulit yang biasanya didengar atau dilihat saat terjadi bencana. Dengan kata lain, anda akan mempelajari Bahasa Jepang yang bisa berguna jika bencana terjadi.

Selain itu, kelas Bahasa Jepang ini, nantinya juga akan dilaksanakan di Pusat Pelatihan Sigap Bencana Kota Toyota (Toyotashi Bōsai Gakushū Senta), jadi Anda bisa mencoba simulasi gempa dan kebakaran, dan belajar cara mengungsi.

Ayo belajar Bahasa Jepang sambil praktek langsung, pasti seru!

Tgl & Wkt : ① 3 Agustus 2014 (Minggu) 13 : 30~16 : 30

② 24 Agustus 2014 (Minggu) 13 : 30~16 : 30

場所 : ①8/3 (日) Aste (ASUTE, Honryū-43 Honmachi, Toyota-shi)

②8/24(日) Toyotashi Bōsai Gakushū Senta(5 Chome-17-1 Chōkōji, Toyota-shi)

Biaya : Gratis Yang perlu dibawa : Alat tulis

Yang boleh ikut :

Siapa saja yang mau belajar Bahasa Jepang

Materi : Belajar tentang bencana

O Pengetahuan & ungkapan terkait bencana

O Cara penanggulangan bencana & simulasi

Pendaftaran : Telpon nomor Aste/isi formulir di bawah

Aste TEL 0565-52-0362



Saya akan ikut kelas Bahasa Jepang untuk Hidup “Ayo belajar tentang penanggulangan bencana!”

Nama		Alamat	
No. Tlp		e-mail	

Daily Life Japanese: Learning about Disasters

Recruiting Japanese Learning Students ♪

Living abroad can be a little scary at times. Especially in the event of a disaster.

Do you know what to do in these cases? In this class, come and learn about what happens in emergency situations and learn the necessary vocabulary for these events.

This class will also be going to the Toyota City Disaster Prevention Training Center to perform mock earthquake and fire scenarios. We will learn exactly how to seek shelter and other useful information for such cases.

All while learning Japanese!

When: ①August 3rd 2014 (Sunday) 13：30～16：30

②August 24th 2014 (Sunday) 13：30～16：30

Where: ①August 3rd 2014 Asute
(Honryū-43 Honmachi, Toyota-shi)

②August 24th 2014 Toyota City Disaster Prevention Training Center
(5 Chome-17-1 Chōkōji, Toyota-shi)

Price: Free Necessities : Pencil & Paper

Who:

Anyone wanting to learn Japanese!

Details: Disaster Prevention Japanese Class

○Learn about disasters in Japan

○Learn necessary vocabulary for disasters

Application • Questions

Direct your questions to Asute at the following pl
Aste TEL 0565-52-0362



Participate in “Daily Life Japanese: Learning about Disasters.”

Name	Address



にほんごきょうしつ



ー日本語パートナー募集ー

外根住宅の集会所で以下のような日本語教室を開催します。

つきましては、外国人の方と共に学び、サポートをしてくださる日本語パートナーを募集いたします。外国語ができなくても構いません。外国の人にとってわかりやすい日本語について一緒に考えましょう！



場所： 外根住宅集会所（豊田市若林東町中外根）
日にち：①9/13(土) ②9/20(土) ③9/27(土)
時間：1：30～3：30
参加料：無料
対象者：外根団地、団地近隣に住んでいる外国人の方
連絡先：名古屋大学 衣川研究室
得永 美穂 mihomipopo@nifty.com

近所に住む外国の方と
お話ししてみませんか。



①9/13(土) 「日本の野菜を知りましょう」	スーパーやまのぶの方に、日本の野菜についてお話してもらいます。 おすすめの野菜や野菜をたくさん使ったみそしるの試食もします。そのあと、外国人のみなさんに野菜を使った料理を考えてもらいます。
②9/20(土) 「スーパーで買い物しましょう」	スーパーやまのぶに行き、買い物体験をします。外国人のみなさんにはこの機会にいつも買い物のときわからないことなどを質問してもらいます。
③9/27(土) 「レシピを紹介しましょう・持ち寄りパーティー」	外国人のみなさんに考えた料理のレシピを書いてもらい、やまのぶHPにアップしてもらいます。 実際に作った料理も持ち寄ってもらい、みんなでパーティーをしましょう。

☆日本語パートナーの皆さまには上記活動のサポートをお願いいたします



Clase de japonés cotidiano

i Vamos a comer muchas verduras

¿Ustedes comen muchas verduras? En Japón hay muchas verduras ricas de acuerdo a la estación del año.

En esta clase, el personal del supermercado Yamanobu donde venden muchas verduras frescas de la estación, nos presentará diversas verduras ricas y su forma de comer.

Puede ser que encuentre verduras que nunca ha comido hasta ahora. Aproveche esta oportunidad para aprender a cocinar verduras de Japón.



Lugar: Sala de reunión de Sotone Jutaku.

Fecha: ①Sábado 13 de septiembre ②Sábado 20 de septiembre

③Sábado 27 de septiembre

Horario: 1:30 a 3:30 de la tarde

Gastos: gratuito

Participantes: personas extranjeras que viven en Sotone Danchi y sus alrededores

※Vamos a conversar en un japonés fácil. Además, como nos ayudan los compañeros japoneses, no importa aunque no hable bien el japonés. También se puede participar con los familiares.

Lugar de contacto: Oficina Kinugawa de la Universidad de Nagoya

TOKUNAGA MIHO e-mail: mihomipopo@nifty.com



① Sábado 13 de septiembre "Vamos a conocer las verduras japonesas"	El personal del Supermercado Yamanobu nos explicará sobre las verduras japonesas. Podemos probar un "Misoshiru" (sopa de Miso) con muchas verduras dignas de ser recomendadas. Luego ustedes van a pensar una receta usando verduras.
②Sábado 20 de septiembre "Vamos a hacer compras en el supermercado"	Vamos a ir al Supermercado Yamanobu, y experimentaremos hacer compras. En este momento se pueden presentar las dudas que Usted tenía cuando hacía las compras de todos los días.
③Sábado 27 de septiembre "Vamos a presentar nuestras recetas y disfrutaremos una fiesta con comidas aportadas por los participantes"	Vamos a escribir la receta de la comida que pensó usted, para subir a la página Web del Supermercado Yamanobu. Además, vamos a hacer una fiesta con la comida que traen cada uno de ustedes.



Classe de japonês utilizado no cotidiano

Vamos comer bastante legumes

Você come legumes frequentemente? No Japão, em cada estação do ano há vários legumes deliciosos.

Nesta classe, funcionários do supermercado Yamanobu, que vende legumes frescos e seguros, irão nos ensinar sobre quais são os legumes deliciosos e como comê-los.

Talvez haja legumes que nunca tenha comido. Que tal aproveitar esta chance e aceitar o desafio de cozinhar legumes japoneses?



Local: Local de encontro das moradias de Sotone

Datas: ①13 de setembro (sáb.) ②20 de setembro (sáb.) ③27 de setembro (sáb.)

Horário: 13:30~15:30

Participação: Gratuita

Alvo: Estrangeiros que vivam dentro e aos arredores das moradias de Sotone

※As aulas serão realizadas com uso de japonês simplificado. Também estarão presentes ajudantes japoneses, por isso, não há problema se não falar muito bem o japonês. Se quiser, traga sua família também.

Contato: Universidade de Nagoya Sala de pesquisas Kinugawa
TOKUNAGA MIHO e-mail:mihomipopo@nifty.com



①13 de setembro (sábado) Vamos conhecer os legumes japoneses	Vamos conversar com o pessoal do supermercado Yamanobu. Vamos experimentar os legumes recomendados e também "misoshiru" feito com bastante legumes. Depois, vamos pensar em como preparar um prato que utiliza legumes.
②20 de setembro (sábado) Vamos fazer compras no mercado	Vamos ao supermercado Yamanobu e ter uma experiência de compras. Vamos aproveitar essa chance para tirar as dúvidas que temos quando fazemos compras.
③27 de setembro (sábado) Vamos apresentar a receita・Festa"cada um traz algo"	Vamos escrever a receita que todos pensaram. Elas serão publicadas na homepage do mercado. Também vamos fazer uma festa trazendo os pratos que cada um fez.



6年度文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業・地域日本語教育実践プログラムB」



Daily-Life Japanese Class

Let's eat lots of Japanese Vegetables!

Do you eat vegetables often? Depending on the season, there are many delicious vegetables in Japan.

In this class, Yamanobu supermarket employess will teach us how to eat the fresh and safe vegetables they sell.

There may even be vegetables you've never eaten before. But please take this opportunity to try something new.



Location: Sotone Shuukaijo

Dates: 1) 9/13 (Sat) 2) 9/20 (Sat) 3) 9/27 (Sat)

Time: 1:30~3:30pm

Participation Fee: Free

Eligibility: Foreigners living in or around Sotone Danchi are welcome.

※ This class uses easy-to-understand Japanese. We also have a Japanese Partner Program so don't worry if you don't speak much Japanese.

Contact Information: Nagoya University's Kinugawa Research Lab.
TOKUNAGA MIHO e-mail: mihomipopo@nifty.com



1) 9/13 (Sat) "Get to know Japanese Vegetables"	Yamanobu supermarket employees will talk about Japanese vegetables. Vegetables will be recommended and they will have a sample tasting of Miso soup made with many vegetables. Afterwards everyone will invent your own vegetables recipes.
2) 9/20 (Sat) "Let's shop at the Supermarket"	We will go to the Yamanobu supermarket and buy groceries. Take this chance to ask any questions you normally have when grocery shopping.
3) 9/27 (Sat) "Introducing Recipes · Potluck Party"	Everyone will write down the recipes they invented and upload them onto Yamanobu's website. Everyone will bring the food they made and we will have a potluck party.



生活用语日语培训班

多吃点日本的蔬菜吧

大家经常吃蔬菜吗？在日本每个季节都有很多美味的蔬菜。

在这次的培训班，我们从出售着许多新鲜又安全的蔬菜的“yamanobu”超市，

请来了工作人员，来介绍我们认识一些美味的蔬菜以及它们的吃法。

其中可能有一些蔬菜是我们以前从未吃过的。抓住这个机会，让我们尝试着挑战一下使用蔬菜做的美味佳肴吧！



地点：外根住宅区集会所

日期：①9/13（周六）②9/20（周六）③9/27（周六）

时间：1：30～3：30

参加费用：免费

征集对象：外根住宅区及附近的外国居民

＊使用简单的日语进行授课。另有日本人学习伙伴的支援，所以不会说日语也没关系。家人也可参加。

联系方式：名古屋大学 衣川研究室

TOKUNAGA MIHO e-mail: mihomipopo@nifty.com



①9/13（周六）“认识一下日本的蔬菜吧！”	“yamanobu”超市的工作人员会跟我们介绍有关日本蔬菜的知识。还会有工作人员推荐蔬菜及使用各种蔬菜做成的味噌汤的试吃环节。之后由大家参与思考使用到蔬菜的菜肴。
②9/20（周六）“去超市购物吧！”	去“yamanobu”超市体验购物。借这个机会，把平常购物时遇到的不明白的地方都问清楚吧。
③9/27（周六）“介绍一下烹饪方法吧・美食大会”	写下大家各自想出来的菜肴的烹饪方法，并上传至“yamanobu”的公共主页。把按照各自的方法烹饪出来的菜肴带过来，跟大家一起开美食大会。

平成 26 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム（B）

「生活日本語教室」指導者育成研修会

体験を通した 日本語学習を デザインしよう

本学では、文化庁より平成 26 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を受託し、豊田市内で地域住民のための「生活日本語教室」を開催します。そこで、その教室の考え方や教室活動の作り方を学ぶことができる研修を実施します。

研修会では、体験の中からの日本語学習の考え方を学び、教室を飛び出し実践的な教材づくりを体験します。実践的な教材づくり・活動を実施してみたいという方はぜひともご参加ください。

日時

2014 年 7 月 12 日（土）～10 月 18 日（土）【全 12 回】

【理論編・実践編】13:00～17:00

【見学・実習】 各自で日程調整の上、決定

場所

豊田市国際交流協会（T I A）

（豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター 3 階）

とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）

（豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター 2 階） 他

対象

満 22 歳以上で、下記の条件に該当する方

- ①上記研修会に 8 割以上参加可能な方
- ②地域在住の外国人住民の特徴を理解している方
- ③研修後、指導者・教材作成者として活動できる方

申込・問合せ

名古屋大学国際言語センター 衣川研究室

Mail otoiawase@toyota-j.com / TEL 052-789-4700

（申込はメールのみ）



定 員 10 名

（応募者多数の場合、選考）

受講料 無料

申込方法

裏面申込書の内容をメールでご応募ください

締切

2014 年 7 月 9 日（水）

【プログラム詳細】

回	日程		内容
1	7月12日	理論編	日本語教室運営の考え方 地域在住の外国人に対する教室の実践で、重要なことを考えていきます。
2	7月19日		教材・教室づくりの方法1 教室活動を計画し教材をつくる上での考え方を学びます。
3	7月26日		教材・教室づくりの方法2 活動・教材をつくる実習に向けて、案を考えていきます。
4	7月27日 ～8月8日	見学	教室見学 実際の活動をイメージできるように教室を見学します。見学後には、見学レポートを提出してもらいます。
5	8月9日	実践編	活動デザインの方法 実際に体験活動の計画を考えます。
6・7	8月10日 ～9月12日	実習	活動デザイン実習 考えた計画をもとに、実践に向け必要な交渉・調整を行って準備をします。
8	9月13日 ～9月21日		活動実施 実際に体験活動を行って、教材を検討する素材にします
9	9月27日	実践編	教材作成の方法 体験活動の素材等をもとに教材づくりの方法を学びます。
10・11	9月28日 ～10月7日	実習	教材作成実施 実際に教材を作成してみます。
12	10月18日	実践編	教室開設の準備／修了式 実際の教室を念頭に置いて、どのように教材をつかうのか等を検討します。

※1 見学・実習は受講者間で日程調整を行い、期間内に1～2回定めます。

※2 初回（7月12日）は、豊田市国際交流協会（TIA）32会議室にて実施します。

以下に記入の上、下記申込先まで送付してください。

【受講申込書】			
(カナ)			
氏名	姓	名	
電話	()	—	年齢
住所	〒	歳	
メールアドレス(携帯不可)			
これまでの経験を踏まえ、以下に受講動機をご記入ください。(応募者多数の場合、選考に使用します)			

【申込先】名古屋大学国際言語センター・衣川研究室 e-mail : otoiawase@toyota-j.com



名古屋大学・豊田市 シンポジウム

日本語教育における「連携」を考える

—地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり—

名古屋大学と豊田市は共働で、平成20年度よりとよた日本語学習支援システムを構築・運営してきました。さらに平成25年度からは、生活場面に即した日本語学習支援に取り組んできました。本シンポジウムでは、その事業報告を行うとともに、行政・産業界・日本語教育などの様々な観点から議論し、多文化共生社会に資する日本語学習支援のあり方を問い直します。

■ 日時 平成27年 **3月3日 (火)** 13:30~16:30 (開場13:00)

■ 会場 **豊田市役所東庁舎 5階 東51・52会議室**
(豊田市西町3丁目60番地)

■ 定員 100名

■ 参加費 無料

■ 申込 EmailまたはFAXにて シンポジウム参加の旨を明記し、
①氏名、②所属（個人の場合は市町村名）、
③連絡先（電話・FAXまたはメールアドレス）
をご記入の上、以下宛先までお申込みください。

■ 宛先 Email : nihongo2015@gmail.com
FAX : (052) 789-4700

■ 締切 平成27年3月2日 (月)



■ お問い合わせ ■

名古屋大学衣川研究室 TEL : (052) 789-4700 Email : otoiawase@toyota-j.com

豊田市企画政策部国際課 TEL : (0565) 34-6963 Email : kokusai@city.toyota.aichi.jp

■ 名古屋大学と豊田市の共働の経緯

平成20年度より豊田市が名古屋大学に事業委託し、日本語教室を柱に日本語能力判定や人材育成、eラーニング等の構築・運営を行う「とよた日本語学習支援システム」を構築・運用してきた。また、平成25年には文化庁から名古屋大学が委託を受け、豊田市をフィールドとして、発展的な日本語学習支援事業を展開している。

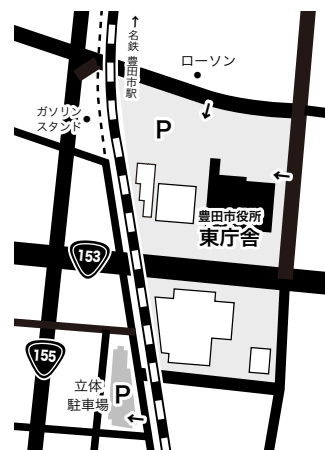
■ プログラム

時間	内容	
13:30 13:40	【あいさつ】	名古屋大学 理事・副総長 渡辺芳人 豊田市長 太田稔彦
13:40 14:10	【事業報告】 名古屋大学と豊田市の取組	北村祐人 (とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター)
14:10 15:00	【事例報告】 日本語教育における 連携の意義	報告者： 衣川隆生 (名古屋大学国際教育交流本部国際言語センター 教授) 野田洋子 (豊田市役所子ども部子ども家庭課 課長) 加藤聖加 (豊田市役所社会部防災対策課 主事) コメンテーター： 新矢麻紀子 (大阪産業大学 教授) ナシメント サユミ (豊田市外国人市民会議委員)
15:00	休憩	
15:15 16:30	【パネルセッション】 これからの「地域日本語 教育」を考える	コーディネーター：衣川隆生 パネリスト： 豊田彬子 (公益財団法人豊田市国際交流協会 理事長) 井上洋 (一般社団法人日本経済団体連合会 社会広報本部長) 金田智子 (学習院大学 教授)

■ 会場

豊田市役所東庁舎 5階 東51・52会議室
(豊田市西町3丁目60番地)

- ・名古屋鉄道「豊田市駅」東口から徒歩5分。
又は、愛知環状鉄道「新豊田駅」東口から徒歩5分。
- ・駐車場は混雑が予想されますので、
できるだけ公共交通機関でお越しください。



■ お問い合わせ

名古屋大学衣川研究室 TEL : (052) 789-4700 Email : otoiawase@toyota-j.com
豊田市企画政策部国際課 TEL : (0565) 34-6963 Email : kokusai@city.toyota.aichi.jp

名古屋大学・豊田市 シンポジウム

日本語教育における「連携」を考える

—地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり—

日時 平成27年 3月3日 (火) 13:30~16:30

会場 豊田市役所東庁舎5階 東51・52会議室



名古屋大学・豊田市 シンポジウム

日本語教育における「連携」を考える

—地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり—

プログラム

● 13:30-13:40

【あいさつ】

名古屋大学 理事・副総長 渡辺芳人

● 13:40-14:10

【事業報告】名古屋大学と豊田市の取組

北村祐人（とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター）

● 14:10-15:00

【事例報告】日本語教育における連携の意義

<報告者>

衣川隆生（名古屋大学国際教育交流本部国際言語センター 教授）

野田洋子（豊田市役所子ども部子ども家庭課 課長）

加藤聖加（豊田市役所社会部防災対策課 主事）

<コメンテーター>

新矢麻紀子（大阪産業大学 教授）

ナシメント サユミ（豊田市外国人市民会議委員）

● 15:00-15:15

【休憩】

● 15:15-16:30

【パネルセッション】

これからの「地域日本語教育」を考える

<コーディネーター>

衣川隆生

<パネリスト>

豊田彬子（公益財団法人豊田市国際交流協会 理事長）

井上洋（一般社団法人日本経済団体連合会 社会広報本部長）

金田智子（学習院大学 教授）

【事業報告】名古屋大学と豊田市の取組

名古屋大学と豊田市は、平成20年度からこれまで共働でさまざまな日本語学習支援の取組を行ってきました。また、平成25年度からは生活場面に即した日本語学習支援にも取り組んできました。ここでは、これまでの共働のプロセスと成果を報告します。加えて、取組の全体像を示すことを通して、以降の事例報告・パネルセッションの議論への橋渡しを行います。

●北村祐人（とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター）

2008年度より「とよた日本語学習支援システム」の構築に携わり、プログラム・コーディネーターとして「地域に密着し交流の要素を兼ね備えた日本語教室」の運営支援を行うとともに、コースデザインや日本語能力判定の開発等にも関わった。2010年からはシステム・コーディネーターとして様々な関係機関や学習者、日本語学習支援者との連携及び他地域への発信等に奔走している。

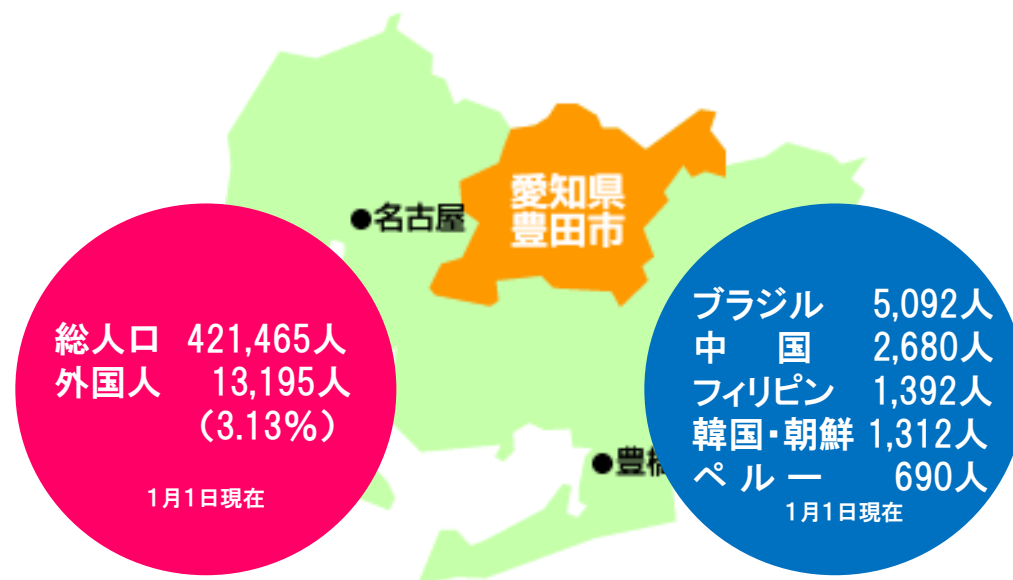
シンポジウム「日本語教育における『連携』を考える」
【事業報告】名古屋大学と豊田市の取組

とよた日本語学習支援システム
北村祐人

1

背景

Nagoya University



【豊田市委託事業】
名古屋大学
とよた日本語学習支援システム

名古屋大学留学生センター 衣川研究室
TEL/FAX:052-789-4700 [お問い合わせ](#)

とよた日本語学習支援システムについて

システム概要 構築の流れ 支援状況 支援内容 メディア掲載 日本語能力判定 資料ダウンロード FAQ

日本語で、つながる
All Begins with Communication

日本語学習から、地域や職場の
よりよいコミュニティづくりをはじめましょう!

スタッフ募集
学習者募集
活動レポート

学習者の方へ

聞く・話す・読む・書くの4つのスキル別セルフチェック
日本語能力セルフチェック

会話 ひらがな カタカナ 履歴書

eラーニング

What's New

[2014.06.05] 「生活日本語教室」指導者育成研修会7月体験を通じた日本語学習をデザインしようを実施します
[2014.05.28] 東陽橋様日本語教室日本語パートナーを募集します
[2014.05.28] 第18回とよた日本語能力判定「対象者判定デスター研修会」参加者募集
[2014.04.15] あすて「たのしみ」の日本語パートナーを募集します
[2014.04.10] 「TIA」の日本語パートナーを募集します

人材育成

日本語
教室

日本語
能力判定

eラーニング





平成20年度～
豊田市受託事業「とよた日本語学習支援システム構築」

平成25年度～
文化庁受託事業「生活者としての外国人のための日本語教育事業」

2

ねらい

Nagoya University

課題

- 外国人市民の地域との隔絶
- 日本語学習支援のひろがりの限界
- 生活に関する基礎知識へのニーズ
- 受け入れ側の体制整備

ねらい

- 外国人が地域住民として必要な基本的知識(以下、生活知識)の習得
- 対話を通じた、生活知識に関わる日本語(以下、生活日本語)の運用能力の育成
- 外国人を取り巻く言語的な環境向上のための意識啓発

ねらい

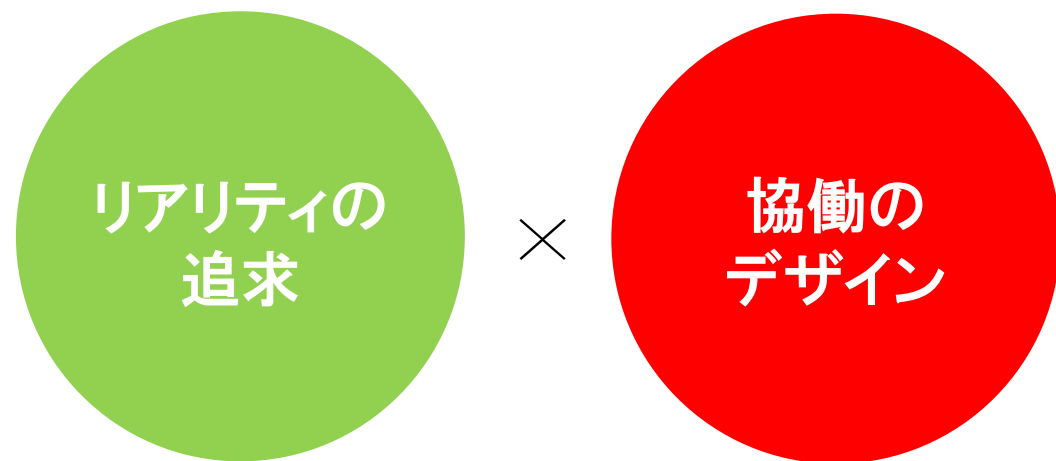
- 外国人が地域住民として必要な基本的知識(以下、生活知識)の習得
- 対話を通じた、生活知識に関わる日本語(以下、生活日本語)の運用能力の育成
- 外国人を取り巻く言語的な環境向上のための意識啓発

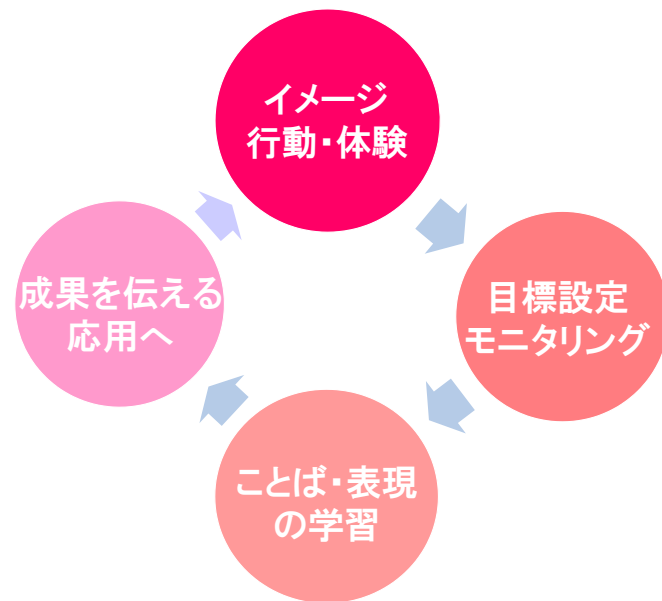
地域の課題を同じ
立場で考えることで
より豊かで快適な社会

3

事業

Nagoya University





4

教材

Nagoya University

文化庁
生活者事業

×

豊田市
受託事業

書き込み型
教材

×

協働型
ビデオ教材



研修会：教材作成実習



出前講座 ごみ減量推進課



映像撮影の様子

かんが
ごみについて考えよう

かんがよう かんがよう かんがよう
協力：豊田市環境部ごみ減量推進課
環境政策課

行動目標

学習目標
設定

市や自治会の取組について理解しましょう

1) 下の質問について考えながら、講座「ごみについて考えよう」を聞いてください。そして、わかったこと日本語パートナーと話してください。

① 下のことが出てきます。読み方と意味が聞いてわかるか確認しましょう。
(聞いてわかります○、見てわかります△、両方わかります◎)

燃やすごみ ()	燃やさないごみ ()	プラスチック製容器包装 ()
ガラスびん ()	飲料缶 ()	ペットボトル ()
有害ごみ ()	資源ごみ ()	金属ごみ ()
紙類ごみ ()	布類ごみ ()	家電品 ()

② 豊田市には、いくつ、ごみの種類がありますか。

③ ①でわかったこと、②でわかったこと、③でわかったことを、④の4つのグループに分けて発表してください。

④

⑤ ④で発表したことが、⑥の4つのグループに分けて発表してください。

⑥

⑦ ⑥で発表したことが、⑧の4つのグループに分けて発表してください。

⑧

⑨ ⑧で発表したことが、⑩の4つのグループに分けて発表してください。

⑩

⑪ ⑩で発表したことが、⑫の4つのグループに分けて発表してください。

⑫

⑬ ⑫で発表したことが、⑭の4つのグループに分けて発表してください。

⑭

⑮ ⑭で発表したことが、⑯の4つのグループに分けて発表してください。

⑯

⑰ ⑯で発表したことが、⑱の4つのグループに分けて発表してください。

⑱

⑲ ⑲で発表したことが、⑳の4つのグループに分けて発表してください。

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

書き込み型
教材

自分自身の
「ことば」

映像教材ラインナップ

教育
【図書館編】

防災
【知識編】

ごみ

救急

医療

市役所
【知識編】

市役所
【手続編】

公共
交通

防犯

交通
安全

5

日本語教室

Nagoya University

考え方

①

イメージをつかむ

②

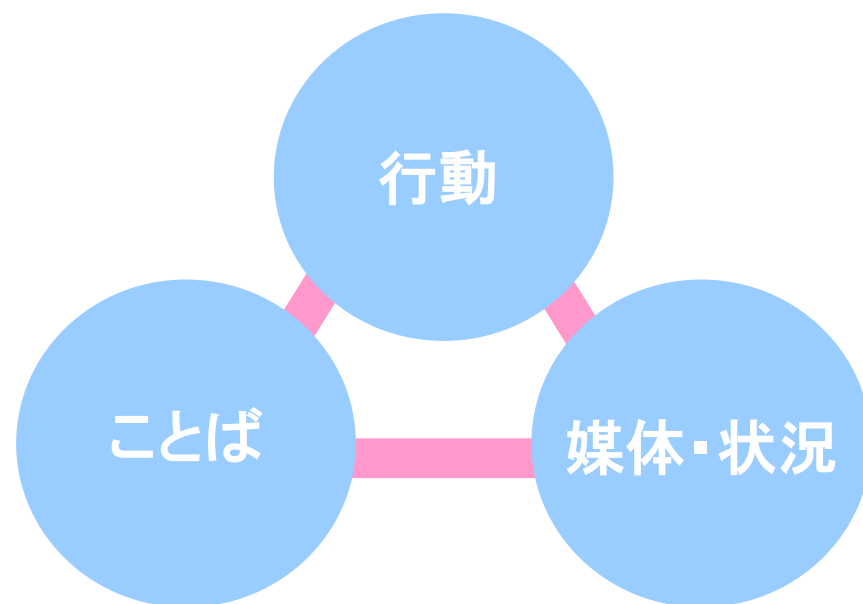
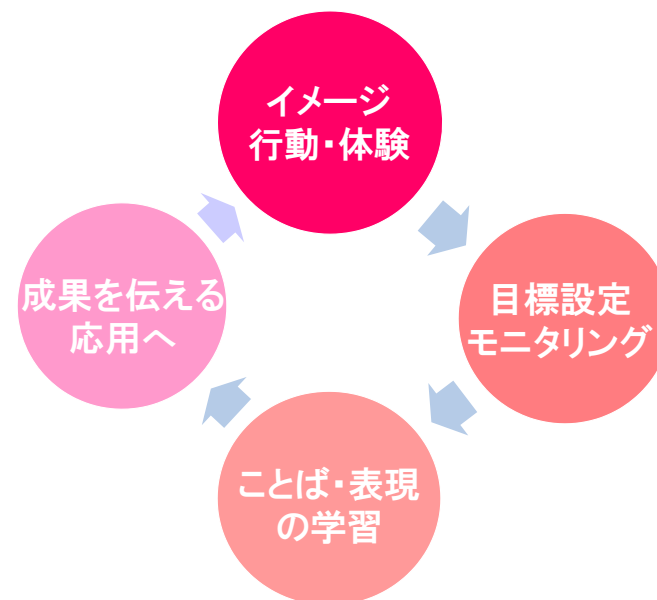
行動・体験する

③

ことば・表現を知る

④

発展的な活動



消防本部 × 日本語教育



消防本部
による
出前講座



通報模擬体験



通報体験
フィードバック



教材化

ごみ

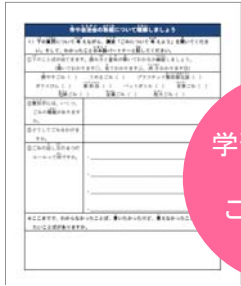
団地 × ごみ減量推進課 × 日本語教育



分別ゲーム
と
自治区取組



制度理解
と
カード申し込み
実体験



学習目標設定
と
ことば・表現



実際に利用する
リサイクル
ステーション



図書館(市教委)×民間×日本語教育



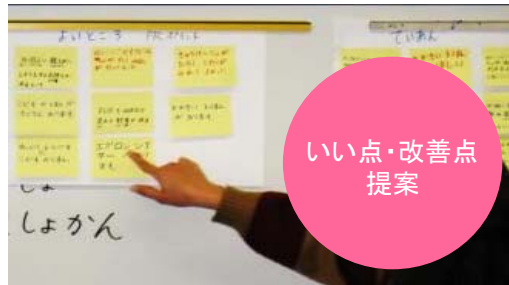
動機づけ向上
と
制度理解



図書館体験
と
映像記録



モニタリング
と
ことば・態度



いい点・改善点
提案

とよた日本語学習支援システム|

Search Web

To be continued...

ご清聴ありがとうございました

Nagoya University

【事例報告】日本語教育における連携の意義

ここでは、平成25年度から名古屋大学と豊田市が取り組んできた導入教育カリキュラム追加事業について、「連携」の観点から事例報告を行います。具体的には、外国人が生活に役立つ日本語を学べる映像教材づくりの過程で行った関係機関との連携を、企画側である名古屋大学、共働者である関係機関の双方の視点から説明します。また、日本語教育の専門家、外国人の2者からコメントをしてもらい、後半のパネルセッションでの議論につなげます。

●衣川隆生（名古屋大学国際教育交流本部国際言語センター 教授）

2008年度より豊田市の委託を受け、地域社会での多文共生社会の実現を目指した「とよた日本語学習支援システム」の構築、運用、普及に携わる。現在、市内に交流を通した日本語教室の普及だけでなく、他地域への日本語学習支援システムの普及にも取り組んでいる。

また、2013年度からは導入教育カリキュラムの構築及びビデオ教材の開発も行っている。

●野田洋子（豊田市子ども部子ども家庭課 課長）

1979年4月豊田市役所入庁。2011年4月から子ども家庭課長として配属され、現在に至る。

主な業務として、児童虐待の早期発見・早期対応、母子保健に関すること及び児童、母子家庭等に係る福祉給付に関することなどを担当し、豊田市が「子育てしやすいまち」として評価されるよう、様々な事業に取り組んでいる。

●加藤聖加（豊田市社会部防災対策課 主事）

2011年4月豊田市役所入庁。2012年より防災対策課に配属され、現在に至る。現在は、啓発担当として、自主防災会の育成支援や市民への防災啓発を行っている。また、2015年1月には、市内の中学生らが、豊田市に集まった世界の8の国と地域の子どもたちと、交流し、防災について学び合う「とよたこども防災サミット」を実施した。

●新矢麻紀子（大阪産業大学教養部 教授）

大阪出身。兵庫県在住。大阪大学大学院人間科学研究科出身。専門は日本語教育、多文化教育、社会教育。地域日本語教育は、関西を中心に教室のアドバイザーや養成講座講師を行っている。移住外国人への日本語教育保障や生きる力に結びつくリテラシーなどに関心があり、国内外の行政機関で調査をしたり、仲間たちと漢字教室を開催したりしている。文化庁の地域日本語教育コーディネーター研修担当講師。

●ナシメント サユミ（豊田市外国人市民会議委員）

豊田市でこども園から高校まで通い、現在豊田市外国人市民会議の委員として活動している。2014年10月豊田市国際交流協会で行われた「国際の日」イベントのため、豊田市在住の外国人を対象とした街頭インタビューを行い、ビデオを作成した。豊田市で育った在住の一外国人として、外国人の目線で意見を述べ、その改善のための力を入れている。

【事例報告】日本語教育における共働の意義 資料

資料１ 平成 26 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 ー地域日本語教育実践プログラム（B）募集についてー（抜粋）

地域の創意に基づき、多様な機関等との連携・協力を図り、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備を推進する次の取組を対象とします。

資料２ 平成 26 年度地域日本語教育実践プログラム（B）名古屋大学申請書（抜粋）

題目：地域全体で取り組む日本語教室を核とした多文化共生社会づくり

目的

本事業においては、「健康・安全」、「消費行動」、「地域社会のルール・マナー」など外国人が地域住民として必要な基本的知識を、「やさしい日本語」による外国人市民講座やワークショップ、実践場面における体験活動などを通して身につけながら、それらのテーマや場面で必要な日本語を習得することを目的とする。同時に豊田市内の関連部局と連携しながら講座・ワークショップ、体験活動を企画、準備、運営、評価をすることを通して、外国人住民に対する導入教育のあり方と必要性の理解を促進するとともに、日本語教室を核とした連携先との体制を整備する。

資料３ 平成 26 年度「とよた日本語学習支援システムの運営及び導入教育カリキュラム等の追加委託」仕様書（抜粋）

導入教育カリキュラムの構築の概要

●目的

定住化の進む外国人住民への、日本（地域）の制度・生活ルール等に関する知識習得の支援（以下、「導入教育」という。）を行うことで、地域社会への適応及び相互理解の促進を図り、もって地域コミュニティの維持・向上及び外国人住民の自立を促進する。

本委託は、平成 27 年度からシステムの運用の中で導入教育が実施できるよう、導入教育の仕組みを構築し、システムのカリキュラムへの追加を目指すもの。なお、仕組みの構築に当たっては、国及び地域の関係機関等との連携により、効果的・効率的に取り組むものとする。

●委託の内容

外国人住民が地域社会で暮らす上で必要な様々なライフステージ（例：子育て、教育、公共交通の利用など）の中から、5 テーマ程度の知識習得のためのデジタル教材及び紙教材を作成する。

【パネルセッション】 これからの地域日本語教育を考える

本パネルセッションでは、前半の事業報告・事例報告を踏まえ、名古屋大学と豊田市の連携の方向性を探ります。また、行政・産業界・日本語教育などの様々な観点から議論し、多文化共生社会に資する日本語学習支援のあり方を問い直します。

●豊田彬子（公益財団法人豊田市国際交流協会 理事長）

2000年5月豊田市国際交流協会理事長に、2004年5月公益財団法人あすて理事長に就任し現在に至る。それ以前、豊田ボランティア協会会長時1999年に、ボランティアグループと共に立ち上げた海外の工場からの赴任者の奥様方の日本文化体験の活動が、2010年に日本語学習支援に移行する。日本人も外国人も誰もが同じ人間として、お互いに手を携えて快適に暮らすことができるあたたかいまちになることを願い、様々な事業に取り組んでいる。

●井上洋（一般社団法人日本経済団体連合会 社会広報本部長）

1980年3月、早稲田大学商学部卒業、同年4月、社団法人 経済団体連合会事務局入局。2004年4月より日本経済団体連合会総務本部・秘書グループ長（奥田碩元会長秘書）、06年6月より産業第一本部長、09年4月より社会広報本部長（現職）。教育問題等を担当。現在、文化審議会臨時委員（国語分科会・日本語教育小委員会所属）。

●金田智子（学習院大学 教授）

1986年より、文化外国語専門学校、Earlham College、広島大学留学生センター等において、日本語教育や教師教育に携わる。国立国語研究所在職時、「『生活者としての外国人』に対する日本語教育」、「生活のための日本語」に取り組み始める。文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員。現在の研究テーマは「『生活のための日本語』の授業のあり方」と「教師の成長」。

【パネルセッション】これからの「地域日本語教育」を考える

目的：事業報告・事例報告で挙げた意義やねらいについて、各パネリストの意見を述べ考えることで、これからの豊田そして地域の日本語教育のあり方について議論する。

- 1) パネルセッションの目的・概要説明
- 2) パネリスト紹介
- 3) 多文化共生社会に向けた現状の課題と事業の意義

今後 10 年を見据えた場合、多文化共生社会を構築していくためには、どのような課題が現在存在しているかを、パネリストそれぞれの立場から述べる。その上で、本事業が課題解決にどう貢献できると考えられるか、という観点から本事業の意義、さらには今後のあり方について議論する。

- 4) 今後の事業の普及にむけて

文化庁と豊田市の委託を受けて構築してきた「豊田在住・在勤の外国人のための導入教育用映像教材」の普及、及びその過程で見えてきた教材作成、人材育成のノウハウを市内だけではなく、他地域にも以下の方法で普及していく計画である。

☆従来のシステムの教室での活用

→従来の教室のテーマとして活用する

→従来の教室の学期間に導入教育用教室を開設

☆年間計画を立て、導入教育用の教室をテーマ別に開設

→転入してきた外国人に対しては市民課窓口で年間計画を周知できるようにする。在住、在勤の外国人に対しても広報や様々な形を通じて周知する

☆それ以外にも企業や中間支援団体の要請に基づき、テーマ別の導入教育教室を開設

今後の導入教育の普及していくために、NPO や公的機関、地域コミュニティ、企業、日本語教育界とどのような連携・協力体制を作り上げていけばいいかについてパネリストそれぞれの立場から提案し、それにもとづいて議論を深める。



名古屋大学 国際言語センター 衣川研究室
とよた日本語学習支援システム 事務局
TEL : (052) 789-4700
URL <http://www.toyota-j.com>
Email : otoiawase@toyota-j.com

豊田市 企画政策部 国際課
TEL : (0565) 34-6963
URL <http://www.city.toyota.aichi.jp/>
Email : kokusai@city.toyota.aichi.jp

豊田市中心中央図書館へ行こう



ねらい

- ①外国人が図書館（公共施設）を利用できるようになる。
- ②外国人にとって利用しやすい図書館（公共施設）のあり方を考える。

教室活動の流れ

第1回

本と図書館の
魅力を知る

- ①多言語(3か国語)で絵本の読み聞かせ
- ②図書館職員が「やさしい日本語」で図書館を紹介
- ③図書館活動での行動目標の設定

第2回

図書館を利用する
【ビデオ撮影】

- ①図書カード作成を申請し、入手する
(日本人は、外国人が利用する視点で施設や対応を観察)
- ②借りたい本やCDを探し、借りる
- ③図書館を探検し、ルール、制度、サービスなどを理解する

第3回

体験活動の
ふりかえり

- ①借りた本の内容や感想を紹介する
- ②借りた本の返却場所や方法を理解する
- ③図書館でのやりとりをふりかえり、言葉や表現を知る
- ④図書館の良い点や改善案を考え、図書館にフィードバック

第1回 本と図書館の魅力を知る

①多言語で絵本の読み聞かせ
(日本語・ポルトガル語・イロン語)



文字や本に興味を持つ

②図書館職員が「やさしい日本語」で図書館を紹介



外国人は利用方法を学ぶ
日本人は「やさしい日本語」を学ぶ

第2回：図書館での体験活動



①申し込み



③申請書を出す



②申請書の記入

活動をビデオ撮影



わからなかったり、
言えなかった言葉や
表現は何か？



④カードを受け取りルールを聞く

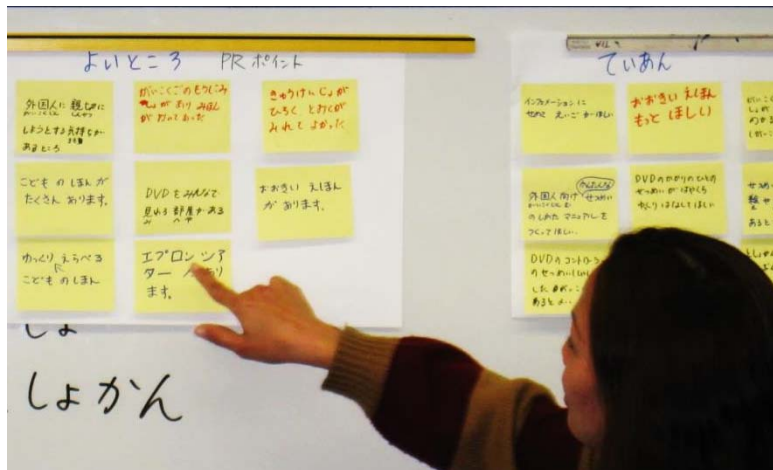
第3回：ふりかえり



①借った本の感想を話す



②録画ビデオでふりかえり
わからなかった言葉や言えなかった表現を知る。



③図書館の良い点と改善点を提案

図書館へフィードバック

外国人が利用しやすい
公共施設のあり方を提案

活動の中で提案した図書館の良い点と改善案

【良い点】・・・

すごい！他の外国人にもPRしたいな

無料、外国語の本や絵本が多い、DVDがある、子どもコーナー・休憩所・ロッカー等がある、広い、きれい、駅に近い、親切、1度に15冊も借りられる、家の近くの交流館で返せる 等。

【改善案】・・・

こうだったら嬉しいな😊

- ・「やさしい日本語」でゆっくり話してほしい。
- ・絵や写真、ジェスチャーを使って説明してほしい。
- ・看板や館内図に英語も併記してほしい。

活動の中で提案した「やさしい日本語」

・おしらせします → **しらべます**

丁寧語や
熟語は
難しいな。

・再発行します → **もう一回つくります**

・①免許証や②保険証、③外国人登録証などお持ちですか？ → ①？②？③？

写真や絵で説明してほしいな。

・「カードが出来上がるまでに5分くらいかかるのでお名前
お呼びするまでおかけになってお待ちください。」

→「**カードは5分でできます。**

カードができたなら名前を呼びます。」

文が長くて？？？
短く、簡単な文がいいな。

成果と課題

【成果】

- ・外国人の**生活の領域がひろがった**。
- ・外国人・日本語パートナー・協働先（図書館）が、公共施設のあり方を**ともに考え学び合う**ことができた。
- ・関わった人々が「**多文化共生社会**」を**意識する**きっかけになった。

【課題】

- ・習得した日本語が定着し、**実生活で運用**できること。
- ・外国人と地域をつなぐ体験活動を**継続**すること。
- ・他の公共施設や、町内会、地域のお店など**協働先を拡大**すること。

日本語講座 「安全・安心な生活しよう」

～病院・薬について知ろう！～



1. 目的・目標

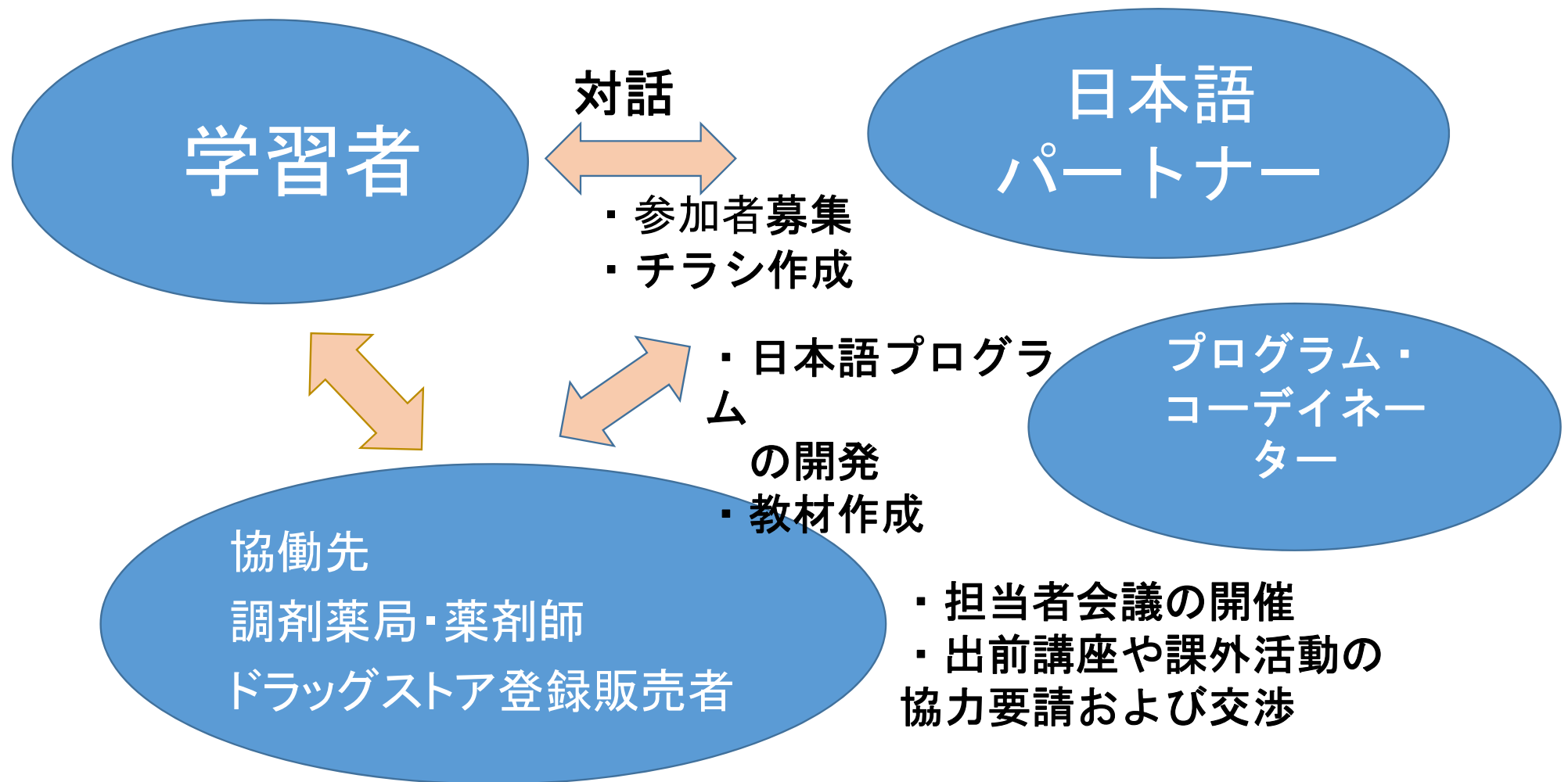
- ①薬の専門家（薬剤師）の出前講座・ドラッグストアでの体験活動やビデオの視聴を通して、外国人が安心して暮らしていくために必要最低限の医療や薬の基礎知識を身につける。
- ②医療・薬に関わる生活日本語の運用能力を身につける。
- ③日本語パートナーが外国人学習者との対話を通して学習者の日本語レベルに合わせて伝わる日本語を身につけ、相互理解を体感する。

2. 日時：平成27年1月22日～2月12日（全4回）
毎週木曜日 13:30～16:30

3. 場所：豊田市国際交流協会（TIA） 32会議室

4. 参加者人数： 30名
（学習者10名、日本語パートナー20名）

5. 教室の形態



6. 活動内容



- ・ビデオを視聴しながら、日本語パートナーとの対話を通して病院のかかり方の場面（受付・診察・会計など）を練習しました。
- ・診察室で医師に病気の症状を伝える練習をしました。
- ・日本語パートナーが医者役になり、学習者が患者役になりロールプレイをしました。

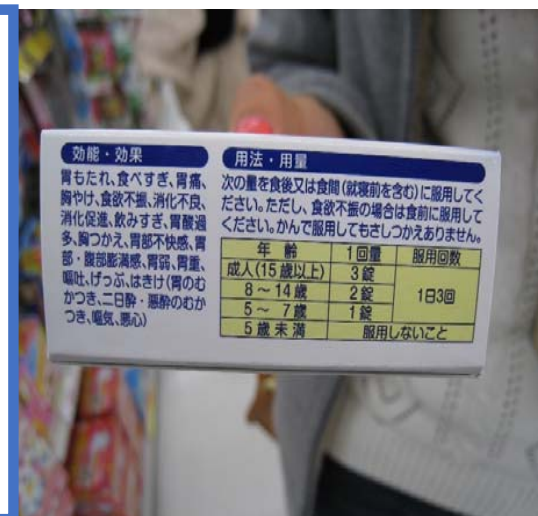


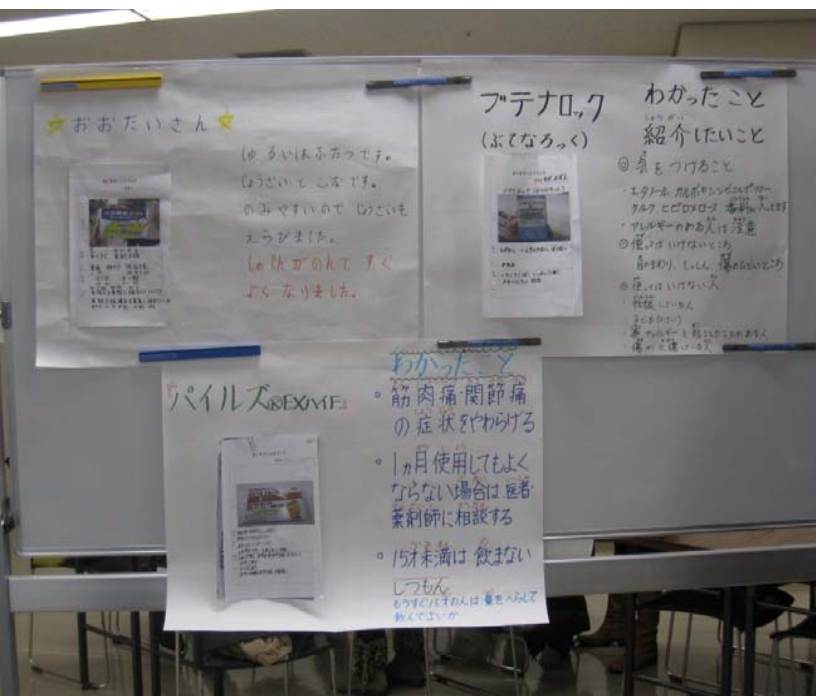
- ・パワーポイントを見ながら、薬剤師さんの説明を理解しました。
- ・日本語パートナーと一緒に薬袋や薬のパッケージの実物を使用しながら、薬の種類や服用の仕方を学びました。





- ・教室の近くのドラッグストアに出かけて、症状を薬局の人に伝えて質問しました。
- ・日本語パートナーと一緒に薬のパッケージを読んで、適切な薬を選んだり購入したりしました。





- ・学習者と日本語パートナーがドラッグストアで購入した、いろいろな薬のハンドブックを作成して発表しました。
- ・次に購入してみたい薬を選びました。
- ・「おくすりハンドブック」を製本して配布しました。友人に渡して伝えることができるようにしました。

7. 成果と課題

- ①学習者の活動への理解度（ふりかえり用紙に記載された結果より）
⇒5段階評価項目中、平均4.2点
病気の症状や薬に関する基礎知識を説明できるようになった。
（日本語パートナーのふりかえり用紙記載から）
- ②日本語パートナーが伝わりやすい日本語を使用する必要性への気づきを
得られた。（アンケート結果より）
- ③薬剤師などの専門家や多くの協働者から視点を得たことにより、日本語学習の
プログラムが充実した。
- ④学習者と日本語パートナーによる「対話と協働」の教室のあり方とプロセスが日本語
学習を促進させ、課題解決への実践に繋がった。
- ⑤今回得たノウハウを応用して、一般的な生活課題解決に向けた教室をコース
デザインしていく。

地域の一員として地域の課題に取り組む



「ごみ」について考えよう



ー団地内教室の取り組みー

事業のねらい

多文化共生社会の構築

地域外国人と日本人が、地域の課題を同じ立場で考えることで、皆にとって「より豊かで快適な社会」を目指す

活動内容のポイント

- ① 同じ地域に暮らす日本人・外国人同士が同じ立場で学び、考える
- ② 実践を伴う活動を取り入れる
- ③ 学んだ知識を周りに広める



第1回 「ごみについて考えましょう」

ごみ分別ゲーム



ごみ減量推進課による 講座



自治会の方の話



団地の ごみの現状



第2回「エコファミリーカードを作しましょう」

環境政策課による説明



エコファミリーカード



窓口体験
(カード作成)



窓口会話の
ふり返し



第3回「リサイクルステーションへ行きましょう」

担当者による講座



エコファミリーカード
体験



分別体験



第4回「発表会」

学習者による発表



団地のごみの分別体験

